

みち、ひと…未来へ。



●ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本
 会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へを表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

●ロゴマーク
 NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行すること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたポールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

●ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」
 西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。

NEXCO西日本グループレポート

2026

みち、ひと…未来へ。

企業情報

ウェブサイト
 Facebook
 YouTube
 X

 ムビー公開中
 広報ギャラリー
 テレビ放映動画等を
 ウェブサイトで公開中

道路交通情報

リアルタイム交通情報 **iHighway**
 ハイウェイ交通情報サイト
 スマホアプリ
 ウェブサイト
 X
 ウェブサイト
 工事規制・
 工事通行止め情報
 交通安全啓発 **STOP!**
NAGARA DRIVING PROJECT
 ながら運転等の危険運転撲滅プロジェクト
 「SNDプロジェクト」

SA・PA情報

西日本のSA・PA情報
 LINE
 Instagram
 モテナスエリア
 ウェブサイト
 Instagram
 地域製品のオンラインショップ

観光情報

あそぶ!くつろぐ! 西のおでかけマガジン
遊・悠・West

 あそぶ!くつろぐ!
 西のおでかけマガジン
 みち旅

 周遊割引申込専用サイト
 運葉のドライブ子報

 絶好のドライブスポットを
 紹介するテレビ番組

お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 経営企画部 CSR推進課
 TEL(06)6344-4000(代表) FAX(06)6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ:
 NEXCO西日本ウェブサイト(https://www.w-nexco.co.jp)から、[お問い合わせ]ページへアクセスできます。





みち、ひと…未来へ。

高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を。
 地域を愛し、地域とともに生きる。
 たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ。

CONTENTS

トップメッセージ…………… P.3

グループ理念・CSR活動方針…………… P.5

私たちについて

事業概要…………… P.7

中期経営計画「MOVE!2030」…………… P.9

特集 名神高速道路全通60周年と
 新名神高速道路の整備…………… P.13

特集 工事の安全管理…………… P.16

安全・安心

高速道路の保全…………… P.19

高速道路リニューアルプロジェクト…………… P.21

災害対応力の強化…………… P.25

交通安全…………… P.27

ネットワークの強化

新規建設・6車線化…………… P.33

スマートIC…………… P.36

4車線化…………… P.37

快適に、豊かに

ETC・料金…………… P.41

SA・PA…………… P.45

地域共創…………… P.51

サステナビリティへの基盤

人とともに…………… P.55

環境経営の推進…………… P.61

コーポレート・ガバナンス…………… P.65

海外への展開…………… P.68

財務情報…………… P.69

データ

会社概要・NEXCO西日本 組織図・グループ会社…………… P.71

事業エリア…………… P.72

NEXCO西日本グループのあゆみ…………… P.73

CSRの重要課題と取り組み状況…………… P.75

NEXCO西日本グループレポート編集方針

本レポートは、ステークホルダーの皆さまに、当社グループのCSRに対する考え方や事業を通じた社会の持続的な発展に向けた取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして作成しています。

- 報告対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日
 (上記期間外の情報も一部含まれます)
- 報告対象範囲：NEXCO西日本及びグループ会社
- 発行時期：2026年6月(前回2025年6月、次回予定2027年6月)
- 注意事項：本レポートに掲載されている将来についての計画や事業に関する見通しは、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。施策の実施予定や完了時期は、公表時点のものであり、状況により見直すことがあります。また、端数処理の関係により、表等の合計が合わない場合があります。

- 使用する略称
- 「NEXCO西日本」「当社」：西日本高速道路株式会社
- 「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」：西日本高速道路株式会社とその子会社及び関連会社を含めたグループ全体
- NEXCO3会社：NEXCO東日本、NEXCO中日本、当社
- 「JCT」：ジャンクション 「IC」：インターチェンジ
- 「スマートIC」「IS」：スマートインターチェンジ
- 「SA」：サービスエリア 「PA」：パーキングエリア
- 「(上)」：上り線 「(下)」：下り線

東九州道(北九州市～宮崎市) 開通10周年

表紙の写真は、2026年4月に北九州市～宮崎市の開通から10周年を迎えた東九州道に位置する別府湾SAで撮影した、別府湾や別府市街地と、高速道路の安全・安心を支える当社グループの社員です。本ページの写真は、別府湾SAで、実際に現地を管理する当社グループ社員同士が、業務推進のためコミュニケーションをとる様子です。



代表取締役社長 荒井 喜治

未来へ前進し、 新たな価値を創出する

01 事業を取り巻く経営環境と 着実な事業推進

当社グループの使命は、高速道路ネットワークを計画的に整備するとともに、重要インフラである高速道路の安全を24時間365日維持し、お客さまに安全・安心で円滑な交通を提供することです。

事業の推進にあたっては、「工事の安全管理」を特に重要な課題と位置付け、重大事故の撲滅に向けて事故の背景や要因を丁寧に見直すとともに、リスクの早期把握と未然防止に向けた取り組みをグループ一体で着実に進めています。

建設事業では、新名神高速道路について安全を最優先に1日も早い開通を目指し、事業を推進するとともに、大和北道路、神戸西バイパス、淀川左岸線延伸部、名神湾岸連絡線の新設事業や4車線化事業についても着実に進め、高速道路ネットワークの強化に取り組んでいます。

また、保全事業では、頻発化・激甚化する自然災害への迅速な対応に加え、リニューアル工事や耐震補強工事を計画的に推進し、高速道路の機能と信頼性の維持・向上を図っています。

SA・PA事業では、店舗・お手洗いのリニューアルや地域・人

気コンテンツとの連携企画、シャワーステーションの整備など、お客さまの声を反映した価値向上に取り組んでいます。一方で、自然災害の頻発化・激甚化、資材価格や労務費の上昇、人手不足の進行、働き方改革への対応、更には技術革新や脱炭素への対応など、当社グループを取り巻く経営環境は、近年、大きくかつ複雑に変化しています。

こうした環境を乗り越え、将来にわたって安全・安心な高速道路サービスを安定的に提供し続けることは、当社グループに課せられた重要な責務です。グループ一丸となって、これまで以上に果敢に挑戦してまいります。

02 中期経営計画「MOVE!2030」の スタート

先述のとおり、近年、当社グループを取り巻く環境は一段と複雑さを増しています。こうした変化に的確に対応し、将来にわたって高速道路サービスを安定的に提供していくためには、従来の延長線上の取り組みに加え、更なる変革が必要であると認識しています。

このため、今後5カ年の指針、いわゆる“道しるべ”として、中期経営計画「MOVE!2030」を2026年4月に策定しました。本計

画では、「高速道路事業の確実な推進と高度化」と「関連事業の更なる展開」を両輪とし、全部門が一体となって新たな価値を創出していく姿を描いています。

「MOVE!」には、高速道路が担う“移動”としての役割に加え、「未来へ前進する」、「人の心を動かす価値を創出する」といった思いを込めています。この理念のもと、高速道路を通じて社会の発展に貢献するとともに、お客さまに新たな価値と感動を提供してまいります。

また、これらの取り組みを支える基盤として、デジタル技術の活用を一層推進します。民営化時と比べて3倍を超える規模に拡大した事業量に対応するため、DX(デジタルトランスフォーメーション)戦略「NEW ACE DXs」※に基づき、高速道路マネジメントの高度化と業務の効率化・自動化を着実に進めていきます。

※ NEW ACE DXs: NEXCO Westの頭文字と「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy (先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する)」に由来する当社グループのDX戦略の略称

03 人とともに進む

当社グループにとって最大の資産は社員です。変化し続ける社会に対応し、高速道路の進化を支え続けていくためには、多様な発想とチャレンジ精神を持つ社員一人ひとりがその能力を最大限に発揮することが不可欠です。

そのため、「何でも言い合える風通しの良い明るい職場環境」の更なる醸成を図るとともに、安全の確保やチーム力・生産性の向上につなげてまいります。

また、社員が安心して働き続けられる環境づくりにも注力しており、「健康経営優良法人2026」に認定されるなど、心身の健康を支える取り組みを継続的に推進しています。

更に、価値観の多様化やライフステージの変化に対応し、仕事(ワーク)と生活(ライフ)の調和を保ちつつ、ダイバーシティの推進に取り組むことで、それぞれが力を発揮できる組織づくりを一層進めていきます。

そして、安全とコンプライアンスを揺るがすことなく、これまで培ってきた現場力を土台に、確実な業務遂行を徹底し、当社グループの使命を確実に果たしてまいります。

04 地域の魅力づくり

当社グループは、多様化する地域課題に対応するため、地域と連携した「地域共創」活動を推進しており、2026年で7年目を迎えました。この活動は、地域と当社グループがお互いのリソースを活かし、持続可能な地域づくりに挑戦するものです。高速道路の機能やサービス、当社グループのノウハウやネットワークを活用し、地域の新たな魅力を創出・発信することで、人と地域をつなぎ、観光振興や交流人口の拡大に寄与していきます。今後も、こうした取り組みを通じて、「地域づくりのプラットフォーマー」としての役割を果たし、地域とともに新たな価値の創造に挑戦してまいります。

05 環境経営の推進

当社グループは、2008年より環境経営を推進しています。2026年6月には「環境基本計画2030」を策定し、「脱炭素社会の実現」、「循環型社会の形成」、「自然と共生する社会の推進」を3つの重要テーマとして掲げ、事業活動のあらゆる側面で環境負荷の低減に取り組んでいます。また、2026年3月には2040年度までを計画期間とする「道路脱炭素化推進計画」を策定しました。気候変動による自然災害の頻発化・激甚化が懸念される中、道路分野においても脱炭素化の推進が強く求められており、道路照明のLED化などを着実に進めてまいります。

06 持続可能な社会の実現に向けて

当社グループは、CSR活動方針として「事業活動を柱として社会の持続的な発展に貢献する」ことを掲げています。高速道路の進化に挑み続けることで社会インフラの機能を更に高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に寄与していくことが、当社グループの使命であり社会的責任です。

これはグループ理念とも共通する精神であり、社会インフラを担う企業として、持続可能な社会の実現に貢献していくことが重要な役割であると認識しています。

今後も、高速道路の安全・安心の確保、ネットワークの強化、地域連携、環境経営など、あらゆる事業活動を通じてESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを推進し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

07 おわりに

これからも、事業活動を通じて、お客さまや沿道地域の皆さまをはじめ、投資家・国民の皆さま、お取引先、グループ社員など、様々なステークホルダーに対し、社会インフラを担う企業としての責任を果たすとともに、新たな価値の創造に努めてまいります。

皆さまには、本レポート及び当社グループの今後の取り組みに対し、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・ICの建設が進む新名神高速道路 高槻JCT・IC付近

グループ理念

高速道路の使命

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、
高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します

高速道路は、人々の生活に深く根差し、永く将来にわたり日本の文化・産業の発展に寄与する重要な社会基盤です。
私たちNEXCO西日本グループは、人や物の全国的な交流・流通を支える高速道路事業やSA・PA事業などを通じて、西日本地域の経済の発展と生活の向上に貢献するという使命に応えます。
また、良好な環境の保全・形成や、技術や人材交流を通じた国際社会の発展などに積極的に取り組み、あらゆる面で良き企業市民として、社会的責任(Corporate Social Responsibility)を全うします。



社会の持続的な発展
— NEXCO西日本グループの成長 —



CSR活動方針

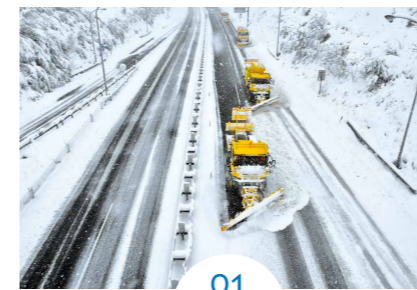
インフラ企業として、すべきこと

事業活動を柱として、
社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSR(企業の社会的責任)は、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。
具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することが、社会の持続的な発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。



主な事業活動とSDGs



安全・安心を追求し、
高速道路を未来へつなげる。

- 高速道路ネットワークをつなげる
- 高速道路ネットワークを強化する
- 大規模更新・大規模修繕を推進する
- 自然災害に備え災害対応力を強化する
- 高速道路の安全・安心をいつまでも守る
- 交通安全対策を推進する



新たな価値を創造し、
地域とともに発展する。

- 高速道路の機能を進化させる
- SA・PAの魅力を高める
- 事業領域を拡大する
- 地域とともに新しい魅力をつくり続ける
- 海外に事業を展開する



社会から信頼され、着実に
歩み続ける企業を目指す。

- 脱炭素社会の実現に向けて取り組む
- 受発注者双方が円滑に業務を遂行できる環境をつくる
- 社員が活躍できる環境をつくる
- DXを推進する

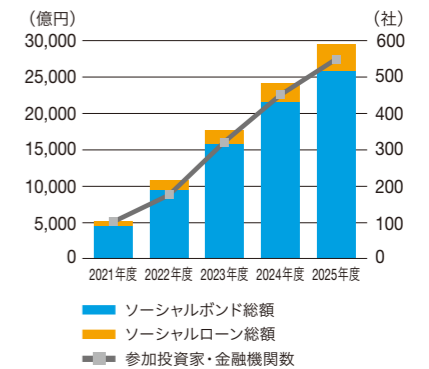


SDGs達成へ貢献 × 資金調達

当社が策定したソーシャル・ファイナンス・フレームワーク*が、ICMA(国際資本市場協会)の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を、2021年6月から取得しています。
ソーシャル・ファイナンスによって調達した資金により、高速道路の新設・改築等を行うとともに、加速化する道路の老朽化、頻発化・激甚化する自然災害、逆走防止といった安全・安心対策などの事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献します。



ソーシャル・ファイナンス

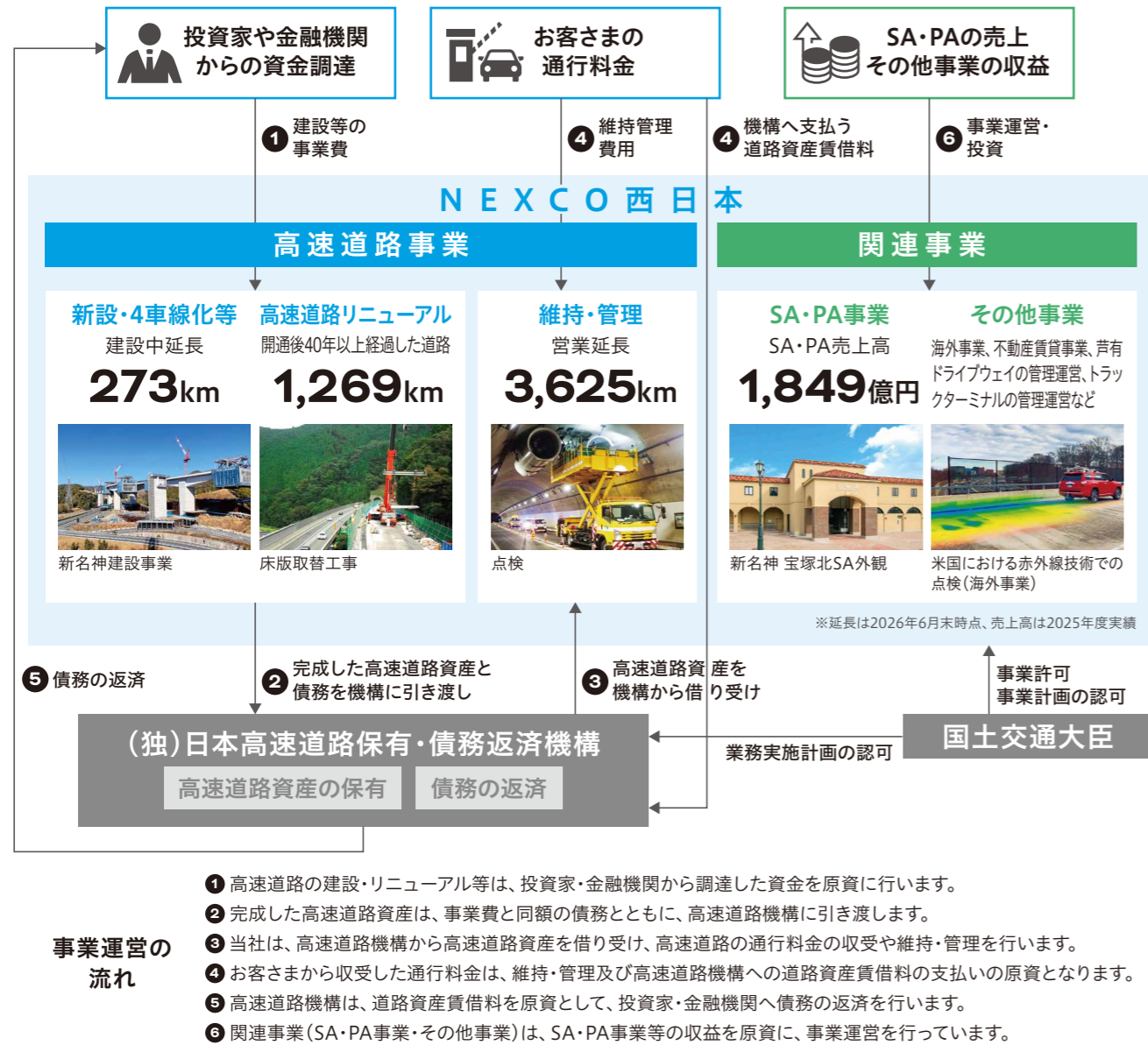


* 当社の高速道路事業(新設、改築、修繕並びに大規模更新)等とSDGsとの親和性を4つの視点(調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定プロセス、調達資金の管理、レポート)から取りまとめた資料

事業概要

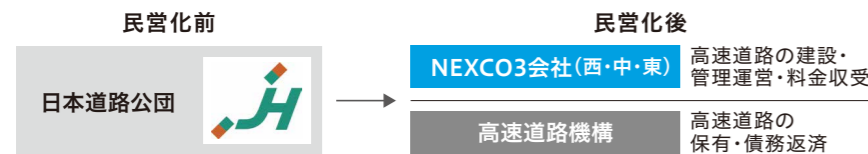
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。グループ会社とともに、西日本エリアの高速道路の建設や維持管理、SA・PAの運営などを行っています。

事業の枠組み



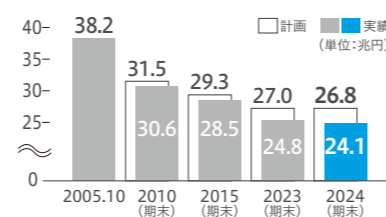
日本道路公団民営化の目的

1. 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
2. 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
3. 民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。



※「高速道路機構」「機構」:(独)日本高速道路保有・債務返済機構

高速道路機構の債務残高



※全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、及び全国路線網以外の一般有料道路を含む

高速道路の料金徴収期間

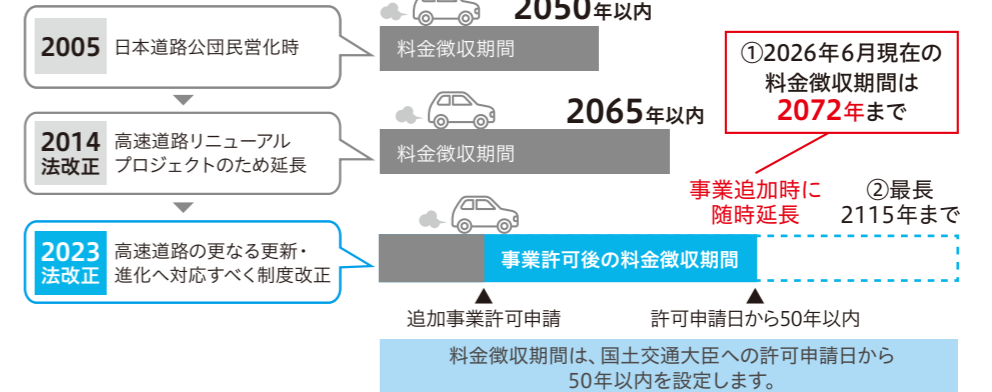
▶ 高速道路の有料道路制度

高速道路の有料道路制度は、早期に道路整備を図るため、借入金によって道路を建設し、完成後に、お客さまから通行料金を収受することで、借入金を返済していく制度です。この通行料金の水準は、道路の建設や維持管理に要する費用を、ある一定期間内で償還できるようにするという観点から決定されています。

▶ 料金徴収期間

当社設立後、料金徴収期間は、2回の変更が行われました。2023年の法律改正では、①料金徴収期間は国土交通大臣への事業許可申請日から50年以内に設定するものとし、②料金徴収期間の設定は最長で2115年を期限とすることとなりました。

民営化後、現在までの料金徴収期間



2023年の法律改正の概要

老朽化や社会・経済構造の変化に対応した迅速かつ計画的な更新事業・進化事業を実施するために、2023年5月、道路整備特別措置法及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法が改正されました。

更新 点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の結果、著しい変状が確認され、新たな更新事業が必要

シース管 グラウト PC鋼材

補修 疲労ひびわれ 下部から路盤部の損傷が進行

水の浸入 下部から路盤部の損傷が進行 下部路盤の永久変形

のり面変状によるのり砕工の損傷

地すべり対策をしても変状が収まらない切土のり面(山陽道 木津地区)

詳細調査により判明した、グラウトの充填不足によるPC鋼材の劣化(橋桁)

新たに判明した舗装路盤部の変状メカニズム

橋梁

- ・床版取替(P.21-23)
- ・グラウト充填材の再注入

土工舗装

- ・舗装路盤部の高耐久化(P.22)
- ・地すべり対策をしても変状が収まらない切土のり面のボックスカルバート化+押え盛土

進化

社会・経済構造の変化などにより生じた、社会的要請を満たすための機能向上が不可欠

暫定2車線区間の4車線化(P.37-38)/耐震補強(P.25)/SA・PAの利便性向上 等



短時間限定駐車マス(P.46)の実証実験



中期経営計画2030

MOVE!2030

当社グループは、2025年10月に創立20周年という節目を迎え、新たなステージへと歩みを進めます。その指針として、2026年4月に中期経営計画「MOVE!2030」を策定しました。私たちは「前進」「変革」「挑戦」「感動」をキーワードに、高速道路の機能とサービスを一層向上させ、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。

「MOVE!2030」策定の背景

近年、当社グループを取り巻く経営環境は急速に変化しています。自然災害の頻発化・激甚化、資材価格の高騰や労務費の上昇が顕著となり、さらに働き方改革、物流2024年問題、自動運転による物流効率化、脱炭素社会の実現に向けた取り組みなど、社会的課題への対応が求められています。こうした状況のもと、私たちは「100%の安全・安心」の追求はもちろん、高速道路の強靱化や災害対応力の強化、新たな物流システムへの対応、休憩施設の利便性向上と魅力アップなど、事業量の増大に対応しながら、これまで以上に果敢に挑戦します。

MOVE!2030



「MOVE!2030」というタイトルに込めた思い

MOVE!=前進 社会・地域とともに未来へ進み、持続可能な成長を目指す。

MOVE!=変革 全てのグループ社員が、主体的に考え、行動し、変革を実現する。

MOVE!=挑戦 技術革新や環境変化をチャンスと捉え、柔軟に進化し続ける。

MOVE!=感動 心を動かす価値を創造する。

役員の声 「進化2025」の振り返りと「MOVE!2030」始動にあたって

当社グループでは、2021年に中期経営計画「進化2025」を策定し、高速道路ネットワークを計画的に整備するとともに、重要インフラである高速道路の安全を24時間365日維持し、お客さまに安全・安心で円滑な交通を提供するという使命を果たしてきました。2026年4月には、近年の社会情勢や高速道路を取り巻く環境の変化等を踏まえて、新たな中期経営計画「MOVE!2030」を策定しました。工事の安全管理の徹底、事業マネジメントの高度化、デジタル技術の積極的活用に加え、自ら考え変革をリードする人財の育成を通じて、高速道路事業の確実な推進と高度化、関連事業の更なる展開を実現し、高速道路の未来を切り拓いていきます。

代表取締役副社長執行役員 経営企画本部長 後藤 貞二



「MOVE!2030」の3つのビジョン

「MOVE!2030」では3つのビジョンのもと、グループ理念の実現を目指します。

ビジョン1 Move up! 安全・安心を追求し、高速道路を未来へつなげる。

- 高速道路ネットワークをつなげる [P.33-35]
- 高速道路ネットワークを強化する [P.33-34,36-38]
- 自然災害に備え災害対応力を強化する [P.25-26,29-30]



新名神高速道路 大津JCT(仮称)~城陽JCT・IC



広島呉道路4車線化工事

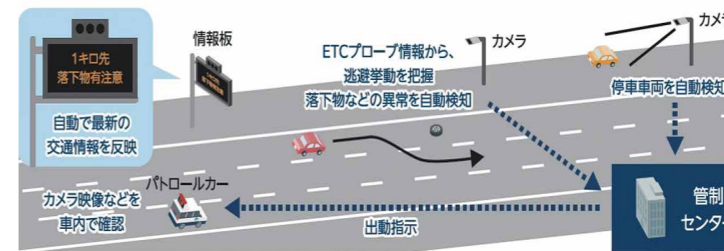


除雪作業状況

- 大規模更新・大規模修繕を推進する [P.21-24]
- 高速道路の安全・安心をいつまでも守る [P.19-20]
- 交通安全対策を推進する [P.27-28]

ビジョン2 Move ahead! 新たな価値を創造し、地域とともに発展する。

- 高速道路の機能を進化させる [P.41]



道路管理情報の高度化イメージ

- SA・PAの魅力高める [P.45-50]



第二神明道路 明石SA (上下集約型) リニューアル (イメージ)

- 事業領域を拡大する [P.12]
- 地域とともに新しい魅力をつくり続ける [P.43-44,51-52]
- 海外に事業を展開する [P.68]

ビジョン3 Move forward! 社会から信頼され、着実に歩み続ける企業を目指す。

- 脱炭素社会の実現に向けて取り組む [P.61-64]



SA・PAでの電気自動車(EV)急速充電設備の整備



SA・PA建物屋上での太陽光発電

- 受発注者双方が円滑に業務を遂行できる環境をつくる [P.11,16,19-20]
- 社員が活躍できる環境をつくる [P.55-60]
- DXを推進する [P.11,19-20]

DXを推進する

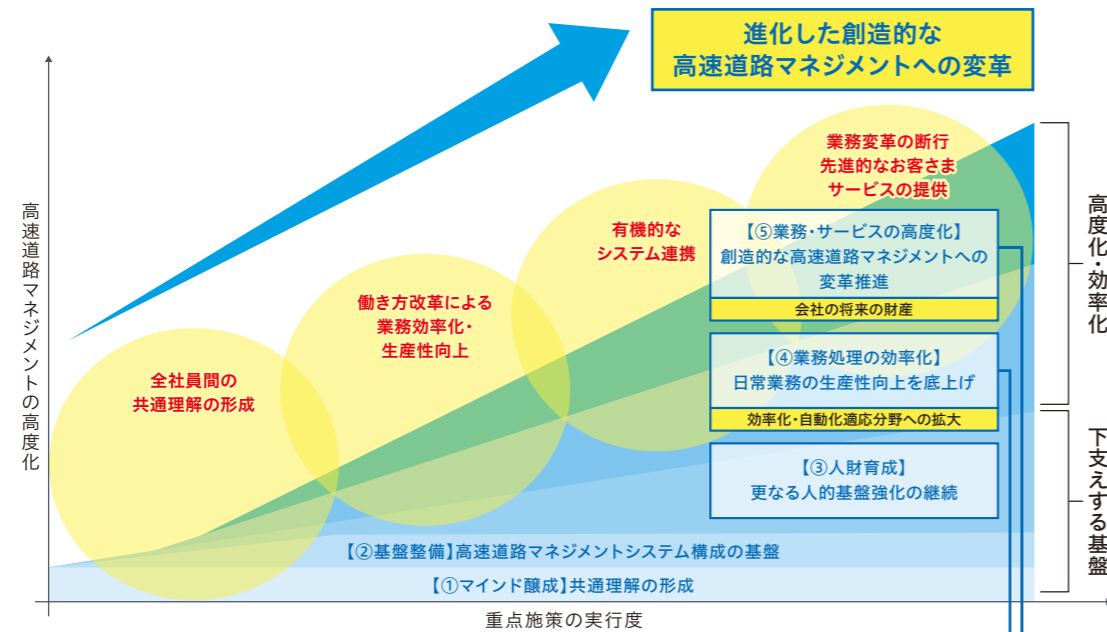
当社のDX戦略「NEW ACE DXs」に基づき、新しいデジタル技術を導入・活用することで、高速道路マネジメントの高度化、業務効率化と自動化の実現を目指します。

DX戦略



NEW ACE DXsとは…

「西日本高速道路」の「NEXCO West」の単語の頭文字 N・E・W に「先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する」を意味する「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy」から、先進的なチャレンジの「Advanced Challenge」、進化「Evolution」の単語の頭文字 A・C・E を組み合わせて定めたものです。



業務処理の効率化

日常業務の生産性向上により、更に効率的な事業運営を実現します。

ICTの活用で設備管理・点検の遠隔化・省力化・高度化

システム化や生成AI、AIエージェント、RPAの活用で業務を効率化

有人チャットやAIチャットボット、リモート対応でお客さま案内品質の向上と省人化

3次元モデルを活用した設計・施工で効率化・高度化 (BIM/CIMの取り組みの推進)

業務・サービスの高度化

デジタル技術の活用により、高速道路サービスを更に高度化します。

6車線化や技術開発で後続車無人隊列走行など自動運転に対応

センサーや衛星データで変異・土壌水分を計測し、のり面などをモニタリング

CCTVカメラでのAI画像処理やETCプローブデータで事故などを早期発見・対応

カメラでのAI画像処理で駐車マス混雑情報の提供を自動化

DXによる高速道路マネジメントの高度化、業務効率化イメージ

TOPICS

ビジョン2 新たな価値創造の取り組み

「空飛ぶクルマ」と「高速道路」の連携

(株)SkyDriveと共同で、次世代モビリティとして期待される「空飛ぶクルマ」と「高速道路」が連携する新たなモビリティ社会の可能性を追求します。将来のサービス実現を目指し、高速道路ネットワークを活かした「空飛ぶクルマ」の利活用策を検討していきます。



SA・PAにおける空飛ぶクルマの活用イメージ

※空飛ぶクルマは、電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、eVTOL (Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft) やAAM (Advanced Air Mobility)/UAM (Urban Air Mobility) と呼ばれています。

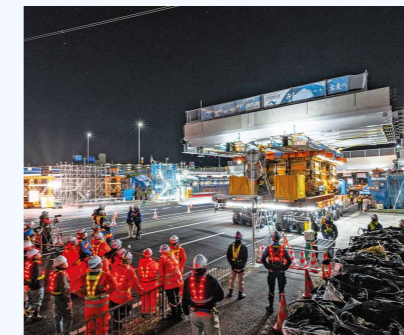
出典:国土交通省「空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組について」2025年10月21日 (https://www.soumu.go.jp/main_content/001036460.pdf)

「進化2025」を振り返って

2021年に、未来の進化した高速道路の姿を描きながら将来のありたい姿について5つのビジョンを示し、その実現のために、中期経営計画「進化2025」を策定し、事業に取り組んできました。

コロナ禍の影響で、交通量やSA・PAの売上が減少する等、取り巻く経営環境が激動する中ではありましたが、グループ社員が一丸となって安全・安心を最優先に高速道路の進化に挑み、「進化2025」の様々な取り組みを進めました。

- 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く [P.19-24,27-30]



高速道路リニューアルプロジェクト (中国道 宝塚IC)

- 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く [P.25-26,33-38]



徳島南部道開通 (吉野川サンライズ大橋)

- 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる [P.41,45-46,49]



駐車マス拡充 (中国道 安佐SA(上))

- 高速道路の顧客体験価値を高める [P.47-48]



九州道 北熊本SA(上下線)リニューアルオープン

- 持続的に進化する企業を目指す [P.19-20,43-44,51-52,61-64,68]

特集

名神高速道路全通60周年と 新名神高速道路の整備

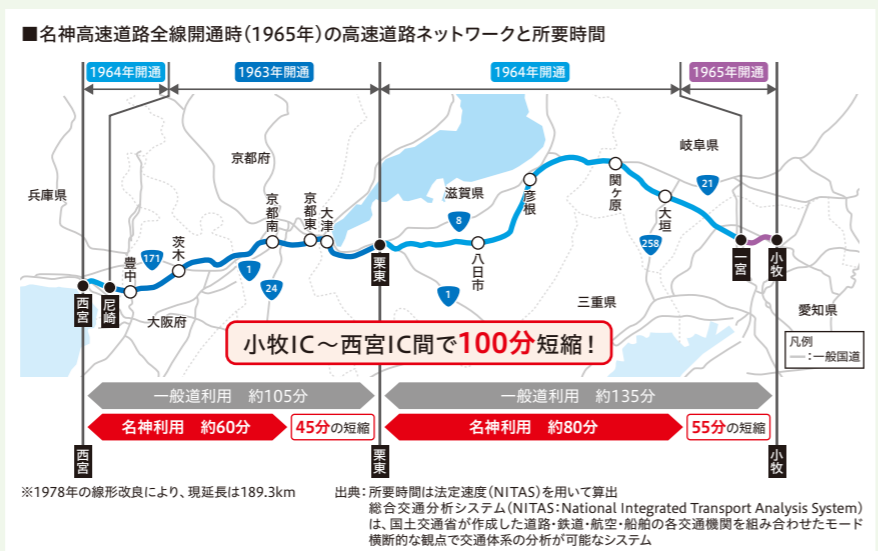
名神高速道路の効果

名神高速道路は、日本で最初の高速道路として整備され、2025年には1965年の全線開通から60年を迎えました。この間、日本の大動脈を形成するとともに、日本経済の発展に大きく貢献してきました。



栗東IC～尼崎IC間
開通式
(1963.7.15)

名神高速道路全通に
伴い日本初の高速バス
が誕生
(1965年)



▶日本初の高速道路の開通で 時間短縮

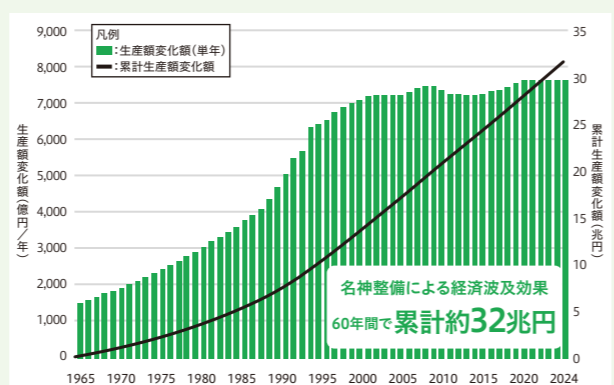
名神高速道路の全線開通により、東海～近畿間の移動時間が短縮されました。

▶開通から累計47億台のご利用

名神高速道路は、周辺道路ネットワークの整備とともに通行台数が順調に増加し続け、1963年の一部開通から2024年度まで累計約47億台と、多くのお客さまにご利用いただいています。

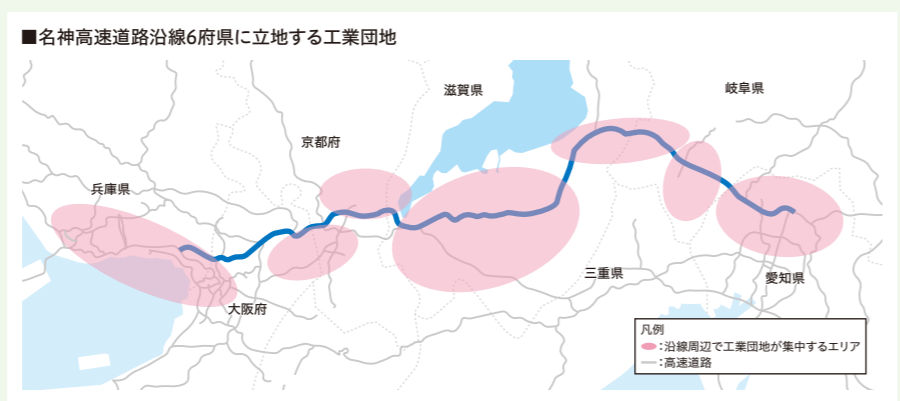
▶60年間で累計32兆円の経済効果

名神高速道路の全線開通後60年間の経済波及効果(生産額変化額)を算出したところ累計約32兆円となり、沿線府県の地域経済に大きく貢献しました。



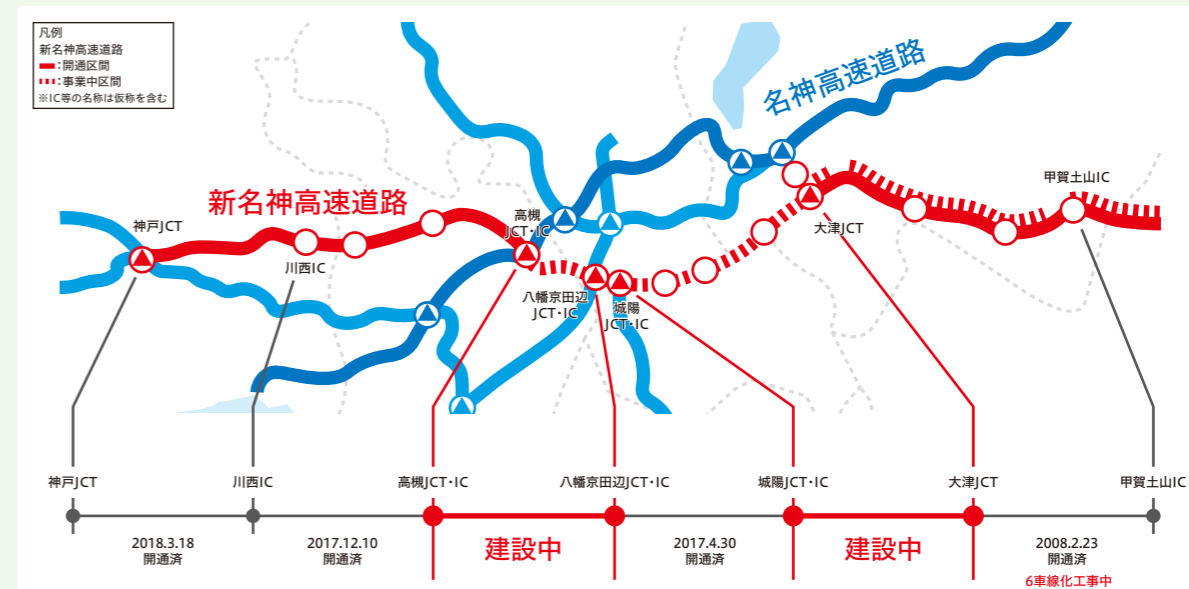
▶沿線への工業団地の立地

名神高速道路の沿線6府県(愛知県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県)の工業団地は、その約5割の数が名神高速道路沿線市町(沿線6府県のうち名神高速道路の各ICから5km圏内の市町)に集中しており、名神高速道路へのアクセスが良いことを利点として多くの企業が沿線に進出しています。



新名神高速道路整備によるネットワークの強化

現在、名神高速道路は交通量の増加による交通混雑が頻繁に発生しています。また、巨大な産業・経済のほとんどが自動車交通に依存しているため、それを支える役割が断絶した場合、国民生活への影響は壊滅的ともいえる状況になると予測されます。これらの影響を緩和するためにも、新名神高速道路の建設を進めることで、名神高速道路と相互に機能を補完し、国土軸のダブルネットワークとして、関西圏と中部圏を結びます。



▶高槻JCT・IC～神戸JCTの開通で渋滞が減少

2017年12月から2018年3月にかけて高槻JCT・IC～神戸JCT間の新名神高速道路が開通することで、両区間は名神・中国道ルートと新名神ルートを選択できるようになりました。



新名神ルートを迂回路としてご利用いただくことが可能になったことで、建設後約50年が経過した中国道では、終日車線規制や夜間通行止めを伴うリニューアル工事に着手しました。

高速道路上の情報板でルート別の所要時間を事前にご案内しています。より所要時間の短いルートを選ぶことができます。

▶沿線で物流施設や大規模小売店舗の立地が進んでいます

高槻JCT・IC～神戸JCT沿線やその周辺地域で、物流施設や大規模小売店舗の立地が進んでいます。



TOPICS

未開通区間の建設・6車線化工事を進めています

「未来につなぐ信頼の道」を全線通してのローガンに、現在、未開通の大江JCT(仮称)～城陽JCT・IC、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・ICの建設及び甲賀土山IC～大江JCT(仮称)の6車線化事業を進めています。今後も、安全・安心で快適な新しい交通サービスをお客さまに提供できるよう、地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。

全線開通後の主な整備効果

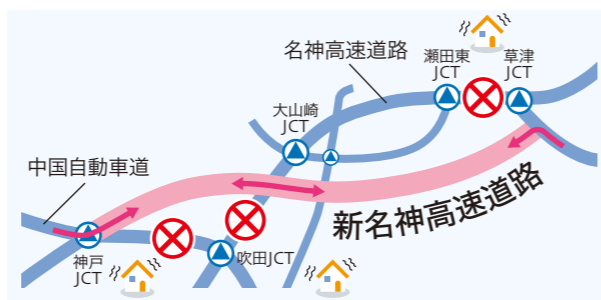
時間短縮

二大都市圏を最短で結ぶことにより所要時間の短縮を実現し、交通の利便性向上や生活範囲の拡大など地域の活性化が期待されます。



災害時の代替道路の確保

日本の大動脈である名神高速道路～中国自動車道には代替ルートがなく、阪神・淡路大震災においては、高速道路ネットワークが一時的に機能停止になりました。新名神高速道路はこのような重大事故や地震発生時などの緊急時に代替道路機能を果たします。



担当者の声 着実な現場の推進

宇治原IC～城陽JCT・IC間では、山砂利採取跡地という特殊な現地環境下での構造物の構築や大規模土工を施工しており、隣接工事との複雑な土配調整や関係機関との協議・調整を綿密に行いながら、着実に施工を推進しています。また、建設業全体が抱える生産性・安全性の向上に寄与する取り組みとして、高速道路の本線建設工事としては全国初となる盛土の自動化施工に挑戦しています。引き続き、安全第一で工事を推進してまいります。



関西支社 新名神京都事務所 城陽東工事区 川崎 巧貴



特集

工事の安全管理 ～重大事故の防止を徹底～

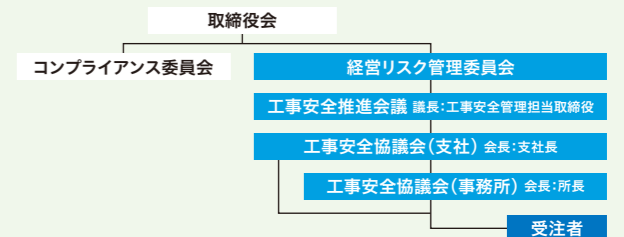
当社グループでは、全ての工事において安全を第一に考え、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標のもと、社会から信頼される会社であり続けられるよう、工事安全管理に取り組んでいます。2016年の新名神建設工事における有馬川橋桁落下事故を契機に、「工事安全管理規程」を制定し、受発注者が協力して、工事着手前に重大事故リスクを洗い出し、必要な予防措置や是正措置などの安全対策を確認したうえで、工事に着手する安全管理を推進しています。



現場での安全パトロール

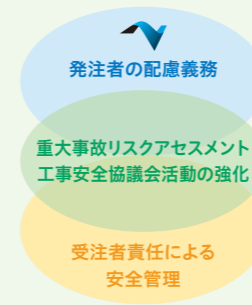
▶工事の安全管理体制

工事中事故を経営リスクとして捉え、経営リスク管理委員会内に工事安全推進会議を設置しています。全社的な情報共有による安全施策の水平展開や意見交換、安全技術の検討を行い、工事安全レベルの向上を図っています。



▶重大事故リスクマネジメントシステムの着実な運用

「受発注者一体となりリスクコミュニケーションを行い、安全な現場を目指す」ため、重大事故リスクアセスメント※を軸とした、重大事故リスクマネジメントシステムを着実に運用し、工事中事故撲滅に向けた安全管理に努めています。



※受注者が施工計画策定時に抽出する重大事故リスクについて、受発注者間で確認を行い、予防措置または是正措置などの安全対策を協議するもの

▶「工事安全誓いの日」

新名神高速道路有馬川橋桁落下事故のあった4月22日を「工事安全誓いの日」と定め、4～5月に重点的に工事安全性向上の取り組みを実施しています。



有馬川橋事故の記録映像を視聴

▶社員教育

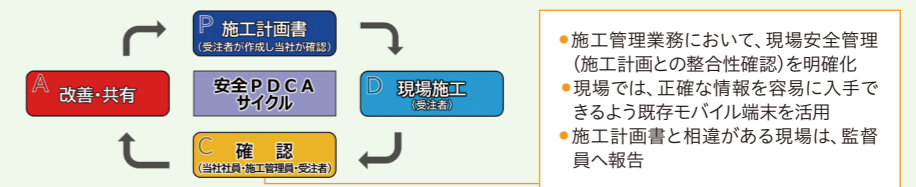
階層別研修や外部講師を招いた講演会等で、知識向上と意識高揚を図っています。



工事安全管理責任に関する弁護士講義

▶受発注者による現場確認と指摘事項の水平展開

「施工計画書と現場施工に相違がないか」現場で受発注者が整合性を確認し、指摘事項を水平展開する取り組みを実施。安全PDCAサイクルの確立により、重大事故撲滅につなげます。



仲間の命を皆で守る!!

2025年度は、「仲間の命を皆で守る!!」を工事安全の基本方針とし、工事中事故を防止するための三ヶ条を中心とした取り組みを実施しました。

- 工事中事故防止の三ヶ条
- 重大事故リスクアセスメントの着実な運用
- 現場コミュニケーション促進
- 安全意識向上のための取り組みの実行

現場の緊張感や臨場感が伝わるよう筆文字で書いた基本方針を現場・事務所などに掲出し、受発注者の双方で工事安全の意識徹底を図りました。



ヘルメット用ステッカー

▶この取り組みにより、2025年度は特筆すべき重大事故は発生しませんでした。

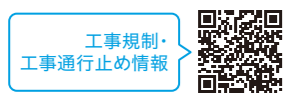


安全・安心

社会インフラとしての責任を自覚し、
安全・安心を最優先に、事業を行っています



中国道(山口JCT~小郡IC)榎野川橋の床版取替工事。



工事規制・
工事通行止め情報



スマホ
アプリ



ウェブ
サイト



X

今も、将来にも、100%の安全・安心を

高速道路の保全



時代の変化に応える 維持・管理の進化

快適な走行環境を守り、高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物等の状態を正確かつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視していくのかなど、適切な維持補修計画を策定し実行することが重要です。当社グループでは、点検・診断・補修・記録/蓄積の一連のサイクルである「保全事業システム」の確立と高度化・効率化を推進しています。



メンテナンスにかかる仕事量が増大

近い将来、管理延長は約3,700kmに拡大

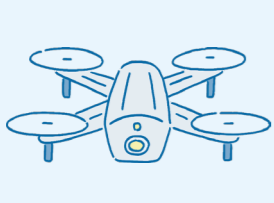
現在の業務サイクル・品質の維持が困難

10年後には高速道路の3割以上が経過年数50年超え

DXを実現する4つの柱で、業務効率化を図る

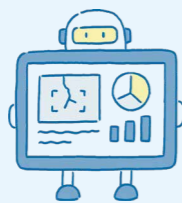
01 機械化

スマートデバイスの活用で安全かつ効率的に仕事をこなす



02 自動化

AI・BI・RPAとの協働で手間のかかる作業を軽減する



03 システム化

システム開発・データ連携で情報を使いやすくする



04 マップ化

GISによる見える化で意思決定のスピードを上げる



- DX (Digital Transformation): デジタル技術を活用して、業務そのものやプロセスを変革すること
- AI (Artificial Intelligence): 人工知能
- BI (Business Intelligence): システムに蓄積した膨大なデータを可視化するツール
- RPA (Robotic Process Automation): 定型的に反復する事務作業を高効率で処理するソフトウェアロボット
- GIS (Geographic Information System): 地図上で位置や空間に関する情報を管理・分析するシステム
- NDO (Nexco Data Ocean): 当社の維持・管理に関するデータベース

就労支援×高速道路の維持管理

当社グループでは、障がいのある方の活躍を支援することを目的に、高速道路の維持管理に関する軽作業等を障がい者支援施設に委託しています。

長崎道 金立SA(上)における草花の植込み作業
(西日本高速道路メンテナンス九州(株))



TOPICS

新たな構造物点検を高度化・効率化

高速道路の構造物等の点検業務は、就労人口の減少や労働時間制限といった社会的課題に加え、構造物の老朽化や自然災害の頻発・激甚化など、環境の変化により一層厳しさを増しています。このような状況の中においても、お客さまに安全・安心な高速道路をご提供し続けるため、点検業務の高度化・効率化に向けた取り組みを進めています。

担当者の声 お客さまと現場作業員の安全性が向上



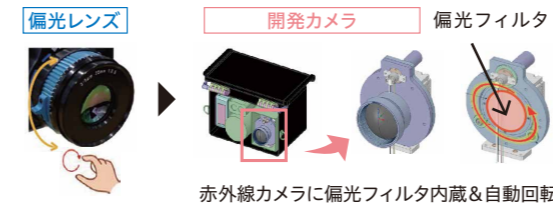
従来より、赤外線カメラを用いてコンクリートの変状を抽出するシステム「Jシステム」を導入しており、高所作業車を用いて実施する打音検査の対象範囲の削減に取り組んできました。2025年度からは偏光フィルタ内蔵レンズを採用した「JシステムEvolution」を活用することで、従来は夜間に限定されていた赤外線調査を昼夜を問わず実施することが可能となりました。これにより、より一層の交通規制回数の削減が可能となり、お客さま並びに現場作業員の安全性向上に寄与しています。

保全サービス事業本部 保全サービス事業部
保全サービス統括課 三瀬 友貴



「Jシステム Evolution」の新技术

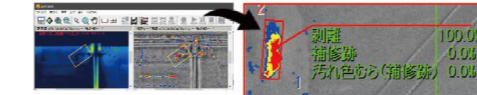
新開発 偏光レンズを手動回転から自動回転へ



新開発 可視カメラと赤外線カメラを一体化



新機能 赤外線画像のAI損傷自動診断



点検員の経験に依存しない調査が可能に
点検時間を65%縮減 ↓ 解析時間を75%縮減 ↓
※夜間調査(偏光レンズ導入前との対比)

「橋梁などのコンクリート変状において遠望非接触にて赤外線法により検出する技術」の取り組みが、国土交通省などが実施した「第9回インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を受賞



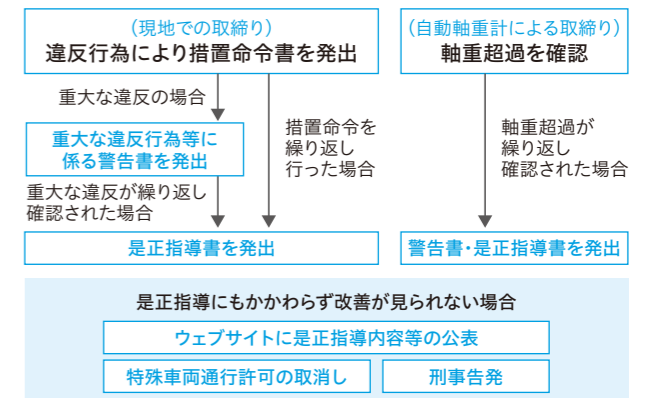
通行車両による道路へのダメージを減らす

▶ 重量超過等の法令違反車両の取締り

重量超過等の違反車両の走行は、高速道路の損傷や老朽化を加速させる要因となっており、また、パンク等により交通事故の原因にもなります。当社グループでは、高速道路を永く、安全に通行していただけるよう、法令違反車両に対する指導・取締りを行い、特に常習的・悪質な違反者に対しては、当社ウェブサイトでの是正指導内容の公表や警察への告発を行っています。



違反者に対する指導の流れ



100%の安全・安心を支え続けるために

高速道路 リニューアル プロジェクト



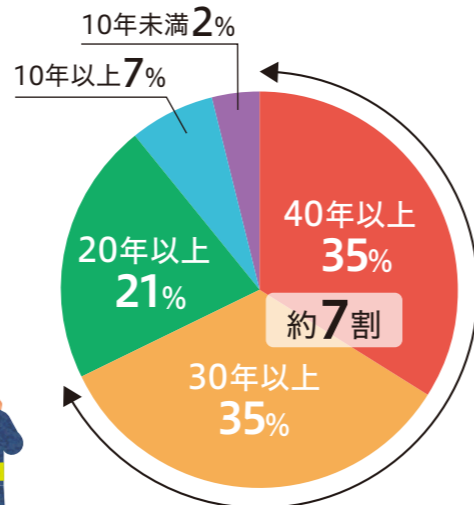
高速道路リニューアルプロジェクト特設サイト



いま対策を行えば、 高速道路は“安全に長生き”します

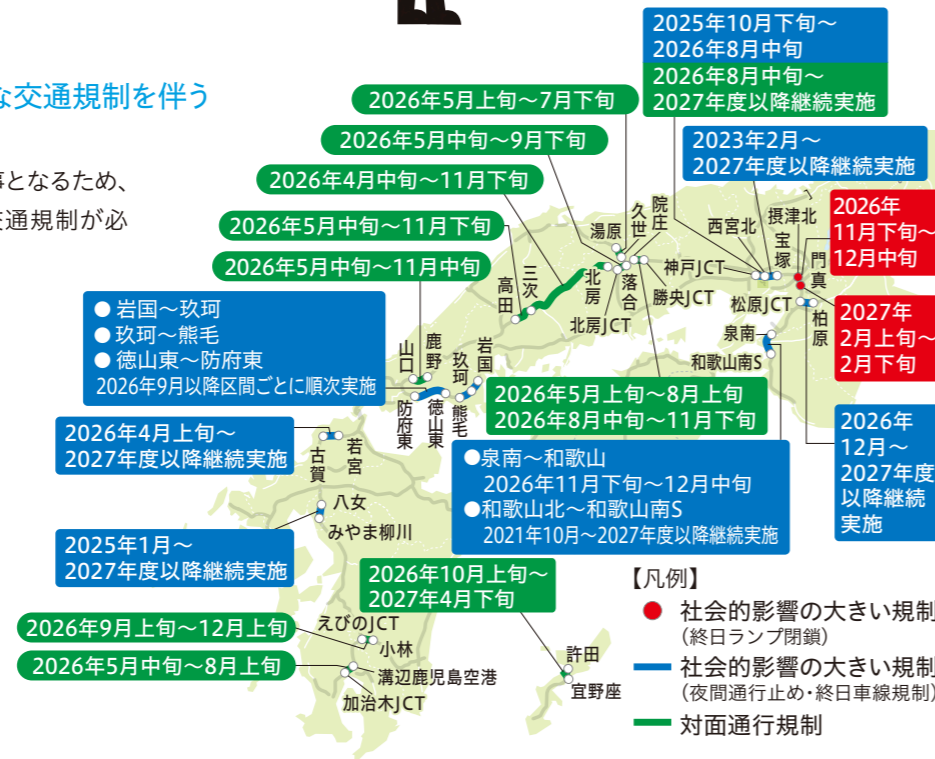
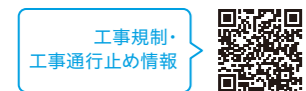
1963年、日本で最初の高速道路である名神高速道路(栗東IC～尼崎IC)が開通してから60年以上が経過し、現在、当社が管理する高速道路のうち約7割が供用から30年を超えました。

経過年数の増加や、大型車交通量の増加、車両総重量の増加、凍結防止剤の散布などにより、道路の老朽化や劣化が進行しています。当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくために、2015年から「高速道路リニューアルプロジェクト」を実施しています。

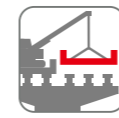


▶ 2026年7月以降に大規模な交通規制を伴う リニューアルプロジェクト

橋を架け替えるなど、大規模な工事となるため、通常の補修工事よりも長期間の交通規制が必要です。



主な工事内容



橋梁の床版取替

損傷した鉄筋コンクリート床版をより耐久性の高い床版に取替



床版取替前



床版取替後

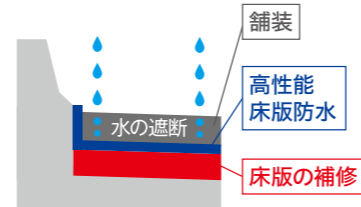


床版取替状況

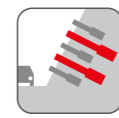


橋梁の床版修繕

損傷したコンクリート床版の厚さを増す補修や、水がしみ込まないための高性能床版防水を施工

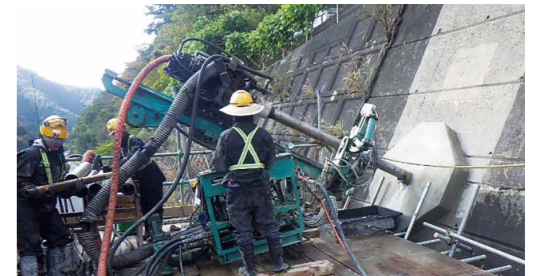


高性能床版防水施工状況



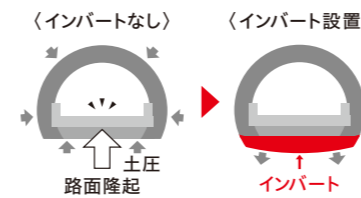
のり面グラウンドアンカー設置

のり面の安定性を高めるため、追加のグラウンドアンカーを設置



トンネルインバート設置

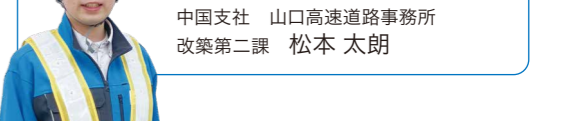
山の性質が悪く、経過年数の増加に伴い過度な力がかかっているトンネルを、リング状のより強い構造とすることで安定性を向上



既設コンクリート舗装の撤去状況

担当者の声 グラウンドアンカー設置工事

中国道(六日市IC～鹿野IC)の切土補強工事では、切土のり面の長期安定性を確保するため、損傷が確認されたグラウンドアンカーに代わり、防食性能が強化された新たなグラウンドアンカーを追加で施工しました。

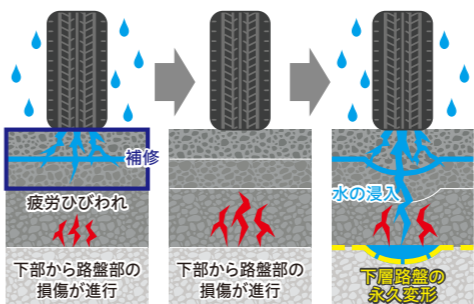


中国支社 山口高速道路事務所 改築第二課 松本 太郎



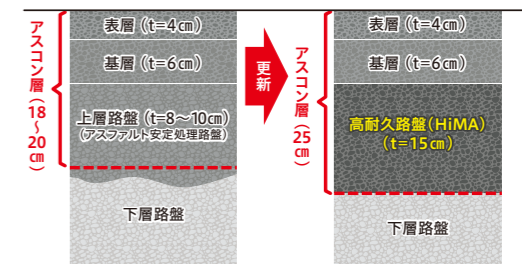
舗装路盤部の高耐久化

変状が生じている路盤を、耐久性に優れた路盤材料に置き換えることで長寿命化を図る



工事の様子 工事完了後

【舗装の高耐久化のイメージ図】



工事による社会的影響を抑えるために

▶長期間にわたる床版取替工事に伴う施工計画・工事管理の工夫

床版取替工事などの大規模なリニューアル工事を実施するにあたり、構造条件や周辺の環境、交通への影響など、様々な制約条件を踏まえたうえで、最適な工法や施工計画を検討しています。

担当者の声 複数橋の同時施工と通年工事で効率性を確保

九州道(八女IC～みやま柳川IC)矢部川橋床版取替工事では、矢部川橋の床版取替工事に加え、矢部川橋の前後に位置する溝口橋及び中島橋の高性能床版防水工事も合わせて実施しています。これまで部分的な補修、補強しかできませんでしたが、3橋を同一車線規制内で施工することで、構造物の長期的な安全性や耐久性を確保できる工事を効率的に進めています。

また、高速道路本線上の限られたスペースで施工を行う必要があることから、架設機を採用した施工計画を立案するなど、施工計画段階から工事受注者と入念な打ち合わせを重ね、作業手順や安全対策、施工ヤードの配置などを詳細に検討したうえで、工事に着手しています。

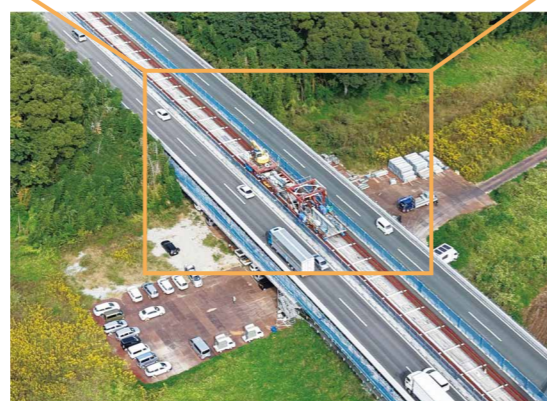
矢部川橋は、一級河川である矢部川を横断する橋梁であり、施工ヤードが河川管理区域内に入るため、河川管理者と入念な協議を行いました。

本工事は、施工期間が長期に及ぶため、梅雨や台風の影響で河川が増水しやすい出水期(6月～9月末)と、比較的水位が安定し、河川が増水しにくい渇水期(10月～5月末)で、河川の様子が異なります。

このため、出水期に河川の水位が上昇した場合も、河川に影響を与えないように、吊り足場を橋梁内に収める構造へ変更可能な仕様としたことで、通年での施工が可能となり、計画的かつ安定した工事環境を確保しながら、工事を進めています。

本工事はまだ続きますので、安全第一で日々の工事管理を行っていきます。

九州支社 久留米高速道路事務所
改築課 松原 一樹



渇水期は作業スペースの高さを確保し効率化



出水期は水位上昇に備え足場を高くし、工事を継続

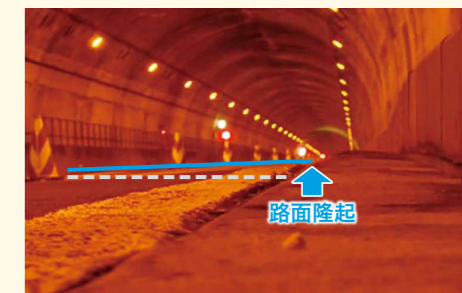
TOPICS

中国道(北房IC～新見IC)高尾トンネルのインバート設置工事が完了

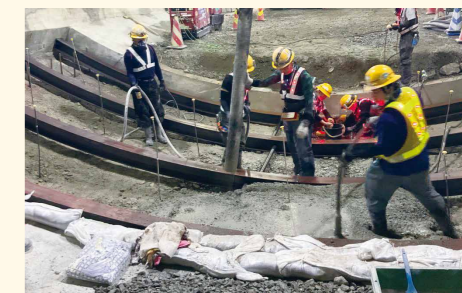
中国道(北房IC～新見IC)では、2016年から高速道路リニューアルプロジェクトの一環として、毎年、対面通行規制を行いながら、橋梁の床版取替工事などを進めてきました。2024年と2025年に実施した対面通行規制の中では、約40年前に矢板工法(鋼アーチ支保工と木矢板を用いた工法)で建設された高尾トンネル(上)において、路面隆起による「盤ぶくれ」が繰り返し発生していたことから、抜本的な対策として、トンネルをリング状のより強い構造とするため、トンネル底面を掘削しコンクリートで固めるインバートを新たに設置する工事を進め、2025年11月に工事が無事に完了いたしました。

▶周辺の環境に配慮しながら、安全に工事を進めるための取り組み

中国道の北房IC～新見IC間は、冬季に凍結防止剤の散布や除雪作業が必要であり、ご利用されるお客さまや雪氷作業用の作業車が安全に走行できるように、対面通行規制の可能な期間が4月中旬～11月末までと限られています。限られた期間の中で安全に工事を進めるため、掘削時の覆工コンクリートの沈下対策として、1年目に背面の空洞注入工とロックボルトを施工し、2年目にインバートの設置工事をを行いました。また、インバートを設置するために掘削する際は、トンネル坑内の粉じんの飛散防止や坑口周辺の家屋に対する騒音対策を行うなど環境保全に配慮するとともに、トンネルの挙動を把握するため、覆工コンクリートを面的にリアルタイムで計測し、変化を色でわかりやすく表示する仕組みを導入し可視化することで、沈下等の変状を早期に把握するようにしました。これらの取り組みにより、各年の施工が11月末を超えることなく、予定された工期内で工事を完了させることができました。



工事前(路面隆起により段差が発生)



工事中



工事後

責任者の声 中国山地の厳しい条件下で進むリニューアル工事

中国道の北房IC～新見IC間は、中国山地の山間部を通過する地形・気象条件が厳しい区間であり、トンネルや橋梁などの構造物が連続しています。開通から40年以上を経過しており、構造物の老朽化が進んでいることから、毎年対面通行規制を行い、リニューアル工事を進めているところです。また、地形の条件から上り線と下り線が大きく分離しており、対面通行規制の際は、その距離が8km弱と非常に長くなり、ご利用されるお客さまや関係機関の皆さまには、毎年、ご不便・ご迷惑をおかけしております。そのような中で、高尾トンネルのインバート設置工事を無事に完了し、冬季を迎える前に対面通行規制を解除できたことに安堵しております。供用中の矢板工法のトンネルに新たにインバートを設置する事例が全国的にも少ないことから、有識者や(株)高速道路総合技術研究所・当社グループ会社、工事受注者と連携しながら工事を進めてまいりました。本工事を無事に終えることができたのは、地元住民の皆さまのご理解とご協力、そして設計から施工まで携わった多くの関係者の支えがあってこそだと感じており、心より感謝申し上げます。引き続き、高速道路の健全性を永続的に確保し、高速道路ネットワークの機能を将来的に維持していくため、高速道路リニューアルプロジェクトに取り組んでまいります。

中国支社 津山高速道路事務所 所長 八田 匡伸



▶工事広報の強化

工事渋滞を抑制するために、工事による車線規制などの日程や迂回ルート、渋滞予測などの情報発信を強化しています。特に影響の見込まれる工事では、特設のウェブサイトを開発するなど、きめ細やかな情報発信を行っています。



工事規制・工事通行止め情報



特設ウェブサイト例

多発する自然災害から、地域と暮らしを守り抜く

災害対応力の強化



橋梁の耐震補強

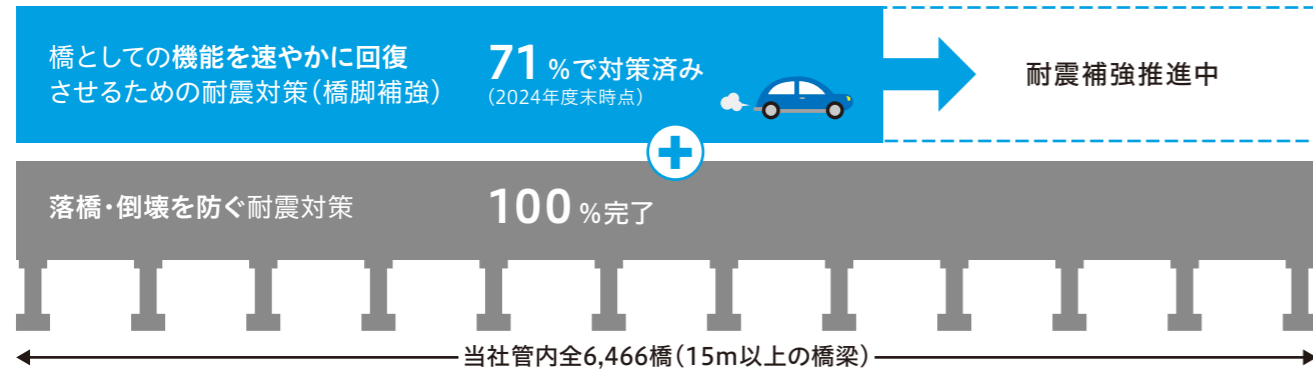
地震発生時、人命救助・被災地の復旧のためには、高速道路が緊急輸送路としての機能を速やかに確保することが重要です。2016年発生の中東地震で得た教訓を活かし、災害時に速やかに機能回復できる道路とすべく、耐震補強対策を進めています。



熊本地震で九州道を横架する県道が落橋

<施工前>
松山道(土居IC~新居浜IC)浦山川橋耐震補強工事

<施工後>



耐震対策の概要

橋脚補強	支承取替	落橋防止
大きな地震力に対し橋脚を補強することで変形・破壊を抑制します。	地震エネルギーを吸収し、構造系に作用する力を低減します。	想定を超える変位・変形が橋に生じた場合、落橋という不測の事態を防止します。
補強前 		
補強後 		
阪和道(泉佐野JCT~阪南IC) 新家川橋	山陽道(神戸JCT)	西名阪道(藤井寺IC~松原JCT) 松原高架橋

更なる推進に向けて

- 耐震補強工事の入札不調対策、新技術の採用等の取り組みとともに、組織体制の強化により、耐震補強対策を加速化
- 上下線の橋脚が分離している橋梁では、どちらか一方の橋脚補強を優先するなどの手法を採用

高速道路の耐震補強実施計画 (2024年1月公表)

NEXCO西日本グループの災害対応タイムライン

豪雨や地震による被害を抑制するために、グループ一丸となって災害対応力の強化に努めています。

通常期

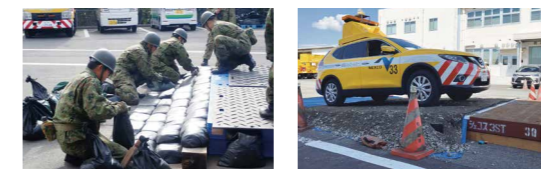
構造物の強化による被害予防

<h4>橋梁の耐震補強</h4> <p>耐震補強はP.25で詳しく紹介</p>	<h4>津波一時避難場所の整備</h4> <p>徳島南部道本線橋の津波避難場所(赤枠内)</p>	<h4>のり面排水機能の強化</h4> <p>強化後の縦溝と集水ます</p>
---	--	--

降雨災害時ののり面被害は、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、その約半数が縦溝や集水ます等の合流部で発生。これらを踏まえ、高速道路リニューアルプロジェクト(P.21-24)の中で、のり面の排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。

災害対応訓練

交通機能確保等の社会的役割を果たすため、防災業務計画の整備や防災訓練等、グループ一丸となって、関係機関と連携し、ソフト面の災害対応力を強化しています。



グループ会社や関係機関との合同による段差復旧訓練

- ・大規模災害発生時等における相互協力に関する協定(自治体)
- ・津波緊急避難における高速道路敷地の一時使用に関する協定(自治体)
- ・災害時の相互連携に向けた協定(電力会社)
- ・災害時における総合通信局との相互連携に関する協定(総務省各総合通信局) など



季節前の準備



降雨出水期前の防災会議 資器材の準備

過去の災害の勉強会



次世代へ災害経験を継承

気象予測等に応じて防災体制を構築強化

お客さまへの情報発信

事前通行止め等による被害抑制



テレビCMやウェブサイト、SNS、関係機関との合同記者会見等による情報発信

2025年8月に発生した豪雨による被災



<被災直後>

<全車線開放後>

担当者の声 大雨による被災からの早期復旧

2025年8月に発生した大雨により、熊本県内でも約129.8kmにわたって通行止め規制を行っていたところ、複数箇所で切土のり面が崩壊し、本線内に土砂が流入しました。これを受け、速やかに流入土砂の撤去等の応急対策を行い、5日後には一部車線規制を含む形で全ての通行止めを解除し、地域の災害復旧に貢献しました。その後、仮復旧工事で土留め壁を設置。10月に全車線開放を行い、更にお客さまが安全・快適に走行できるようになりました。

九州支社 熊本高速道路事務所 保全計画第二課 中島 桃子

災害が見込まれる場合

災害発生

応急復旧
緊急交通路として速やかに機能回復

本復旧

24時間365日、安全で、円滑な高速道路へ

交通安全



24時間体制での交通管理

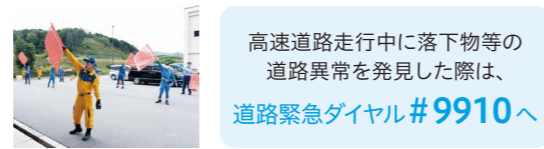
24時間365日の安全・安心を守るため、道路管制センターと交通管理隊が、24時間体制で道路上の各種設備や道路巡回により情報を収集し、事故・落下物等への緊急対応やお客さまへの情報提供を行っています。

隊員の声 お客さまからの「ありがとう」が力になる仕事

運転が好きなことを活かせる仕事として管理隊員に興味を持ち、高速道路の安全を支える社会貢献度の高さに魅力を感じて入社しました。現在は路線の巡回や落下物の排除、故障・事故対応などを行い、困っている利用者を直接助け、感謝の言葉をいただけることに大きなやりがいを感じています。入社当初は女性の少ない職場に不安もありましたが、先輩方に恵まれ、性別に関係なく意見を言い合える温かい環境の中で、自分らしく成長できています。



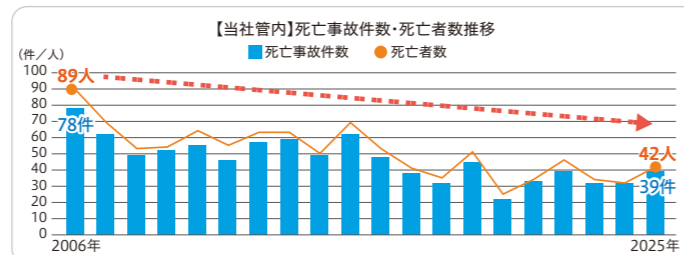
西日本高速道路サービス四国(株) 徳島基地 森本 和佳奈



高速道路走行中に落下物等の道路異常を発見した際は、**道路緊急ダイヤル#9910**へ

安全運転の啓発

交通事故の根絶には、ドライバーをはじめとするお客さまのご理解・ご協力が不可欠です。当社グループでは、ステークホルダーの皆さまとともに、安全な高速道路を目指すため、高速道路内外での交通安全広報・キャンペーン等を推進しています。



死亡事故件数は徐々に減少していますが、未だ多くの尊い命が失われています。

SNDプロジェクト 一交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト

当社と阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、(株)エフエム大阪の4社共同で、高速道路での交通事故につながる「ながら運転」による危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT(通称SNDプロジェクト)」を推進しています。



メッセージキャンペーン グランプリ作品

ともに行動・応援していただけるサポーター募集中

無理せずに 休む勇気も 運動力

わき見・よそ見しながら運転

疲れながら運転 居眠り運転など

間違いながら運転 逆走、不注意の運転ミスなど

イライラしながら運転 おおり運転など

逆走対策

高速道路での逆走は、死亡事故等の重大な事故につながる可能性が高く、正しく走行している車両をも巻き込む可能性のある極めて危険な行為です。「2029年までに逆走による重大事故ゼロ」を目指し、効果的な対策を見定め、高速道路での逆走事故の撲滅に取り組んでいます。

逆走重点対策の実施

重点対策箇所(重大事故発生箇所、複数回発生箇所、平面交差箇所)を選定し対策強化を行っています。重点対策箇所については、公募技術を活用し、視覚的対策だけでなく物理的対策を中心とした対策を実施しています。

啓発用教材の一般公開

NEXCO3社による「無くそう逆走」の取り組みでは、企業・団体や地域コミュニティにおける交通安全講習会などで使用していただける教材として、高速道路の逆走防止啓発の動画教材などをウェブサイト上で公開しています。

- ・年間**80件程度**の逆走事案(事故または確保)※事故に至るのは10件程度
- ・65歳以上の**高齢者によるものが7割**近くを占める
- ・逆走事故は、死傷事故・死亡事故となる割合が高い(高速道路での事故全体に対して、死傷事故**5倍**、死亡事故**40倍**)



過去の技術公募により採用した逆走対策

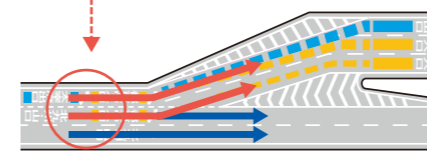
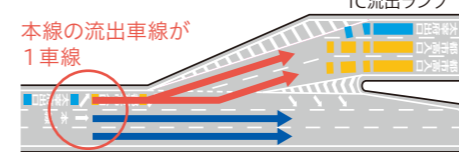


渋滞対策

ハード対策 渋滞しない道路を目指す

1. ネットワークの強化(P.31-38)
2. 車線幅(P.37-38)
3. 車線運用の変更
4. ETC利用率向上

渋滞状況を踏まえた車線運用の変更(太宰府IC)



流出車線を2車線にすることで渋滞を9割削減

ソフト対策 交通分散を促す

1. ウェブサイト・テレビ・YouTube等による渋滞予測の広報
2. ウェブサイト及びスマホアプリによるリアルタイム交通情報の提供(アイハイウェイ)
3. 休日割引の対象日からGW、お盆、年末年始及び3連休等を除外(P.44)



正面衝突事故防止対策

反対車線への飛び出しにより正面衝突につながりやすい暫定2車線区間では、区画柵の設置・検証を実施しています。区画柵を設置済みの箇所では、正面衝突による死亡事故が**0件**となりました。(2026年3月現在)



ワイヤロープ



センターブロック



センターパイプ

降雪時の交通確保に向けて

基本方針 人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する

冬の高速道路の安全・安心を確保するため、上記基本方針のもと、凍結防止剤散布作業や除雪作業等、高速道路の安全で円滑な交通確保に向けて各種対策に取り組み、大雪時の雪氷対策の強化を図っています。

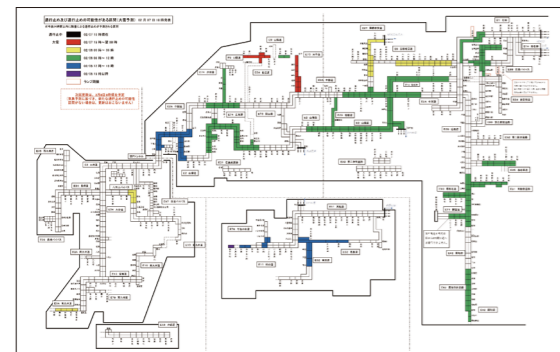
気象予測情報により大雪が予測される場合は、立ち往生車や滞留車が発生する前に躊躇なく通行止めを行うことを想定し、以下のオペレーションを基本として実施します。



大雪時のタイムライン

段階	国・自治体・警察・気象台など	NEXCO西日本	高速道路利用者への呼びかけ					道路情報板
			記者発表	ウェブサイト	X	高速道路影響情報サイト	テレビCM ラジオCM YouTube	
1週間前	気象情報の共有など	通常の雪氷体制			冬装備 安全運転		冬装備 安全運転	冬装備 安全運転
3日前	情報連絡本部での連携	体制強化 ・応援派遣 ・協力要請 (災害協定事業者など)	大雪が予想される地域と時期 注意喚起・出控え・予想される通行止め区間				出控え (切替)	注意喚起
1日前	大雪に関する緊急発表		通行止め可能性区間と時間帯 ※概ね6時間毎に見直し					
降雪中	・情報の一元的収集・共有 ・関係機関での各種調整・協議 ・道路利用者や地域住民への情報提供	立ち往生車・ 車両滞留発生前に 予防的通行止め 集中除雪	【通行止めの場合】 ・通行止め区間 ・作業状況・解除見込みなど					冬タイヤ装着/ チェーン携行 規制情報 通行止め等

概ね2日前から通行止め可能性マップを公表



スマホアプリやSNSでは、ライブカメラや現地の作業状況などを配信



お客さまご自身の命を守るためにも、「大雪に関する緊急発表」や「大雪警報」等が出されるような大雪への警戒が特に必要な場合には、外出をお控えいただくとともに、広域的な迂回、出発時間の変更などをお願いします。

お出かけ前のお願い

- ・お出かけ前には最新の交通情報を確認してください。
- ・冬の高速道路は、冬用タイヤで走りましょう。
- ・タイヤチェーンは常に用意しましょう。

荷主企業・運送事業者の皆さまへのお願い

大雪の影響に伴う広範囲の通行止めが予測される際には、気象予測等をご確認いただき、広域迂回の実施や通行ルートの見直し、運送日の調整などのご協力をお願いします。

走行中のお願い

- ・雪道の走行では、『急ハンドル』、『急加速』、『急ブレーキ』は厳禁です。速度は控えめに、車間距離は通常時より多めにとりましょう。
- ・インターチェンジ入口や本線等に設置された情報板及びハイウェイラジオにより気象状況等をお知らせしています。目的地までの情報に注意して走行してください。
- ・凍結防止剤散布や除雪作業を行っている雪氷対策作業車とは車間距離を十分にとり、後ろをゆっくりと走行してください。

TOPICS

西日本エリア全域で「予防的通行止め」を実施

2026年1月・2月は冬型の気圧配置の影響を受け、西日本エリアに寒波が襲来しました。気象予測により、大雪が予測される場合は、現地状況を踏まえ、関係機関と協議、調整のうえ広域的に予防的通行止めや並行国道との同時通行止めを実施しました。特に、2月7日～9日にかけて襲来した寒波の影響により、普段雪の降らない地域を含めた西日本エリア全域で大雪となったことから、当社管内の総管理延長の約50%にあたる1,794kmが通行止めとなりました。関係機関と連携し、当社グループ総力をあげて対応にあたった結果、大規模な車両滞留を回避することができました。引き続き、「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」という基本方針を遵守し、国民の皆さまへ予防的通行止めの理解度向上を目指す広報活動を強化するとともに、当社グループ一体となって通行止めオペレーションを徹底してまいります。

担当者の声 これまでより通行止め時間を削減

名神・新名神では、大雪による予防的通行止めを2026年1月に2回行いました。これまでの知見を活かしながら大規模な車両滞留を防止するとともに、通行止めの間に集中的な除雪を行うことで、2025年2月に実施した予防的通行止めよりも通行止め時間を短縮することができました。今後も、現場ノウハウの蓄積に努め、大雪時におけるお客さまの更なる安全確保に努めます。



関西支社 滋賀高速道路事務所
保全計画課 尾崎 由季



雪による通行止め時間(NEXCO中日本管内を含む)



スタックによる車両滞留の発生と、 同記事象を繰り返さないための冬用タイヤチェックの強化

2026年1月2日、広島岩国道路(大野IC～大竹IC間)において、ノーマルタイヤ装着車両のスタックを起因とする大規模な車両滞留が発生しました。情報を確認後、速やかに通行止めを実施し、グループ総出でスタック車両及び滞留車両の排除をして除雪作業を行いました。通行止めの解除まで最大で約17時間を要しました。この事象を受け、警察と連携し、冬用タイヤチェックを強化しました。2026年1月11日～12日にかけて、山陽道及び広島岩国道路のインターチェンジ料金所等で冬用タイヤチェックを実施し、約3,000台のノーマルタイヤ装着車両の高速道路利用をお断りしました。これにより、スタック車両の発生を未然に防止することができました。引き続き、関係機関と連携した冬用タイヤチェック等を実施するとともに、冬用タイヤ装着の重要性について周知・啓発に取り組んでまいります。



責任者の声 冬用タイヤチェックへご協力をお願いします

2026年1月2日～3日にかけての通行止めではお客さまにご不便、ご迷惑をおかけしたことから、冬用タイヤチェックを強化し降雪時の交通確保に努めています。2026年1月23日～25日にかけて、警察、隣接の事務所と連携し広島・山口県内の冬用タイヤ規制を実施している区間の一部ICで冬用タイヤチェックを実施したところ、5%のお客さまがノーマルタイヤでした。冬の高速道路では、わずか1台の立ち往生が、長時間の車両滞留を引き起こし、多くの方の命に関わる事態に発展する可能性があります。当社グループでは、複数レーンでのチェックや自動判別装置の使用など、冬用タイヤチェックに伴う渋滞削減にも取り組んでいます。お客さまの安全のためにも冬用タイヤチェックへのご協力をお願いします。

中国支社 広島高速道路事務所 所長 三井 邦弘





ネットワーク の強化

地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献する
より安全で、使いやすいネットワークへ



新規建設事業中の新名神高速道路(大津JCT(仮称)～
城陽JCT・IC)城陽高架橋。



ひと、モノ、未来をつなぐ

新規建設・6車線化

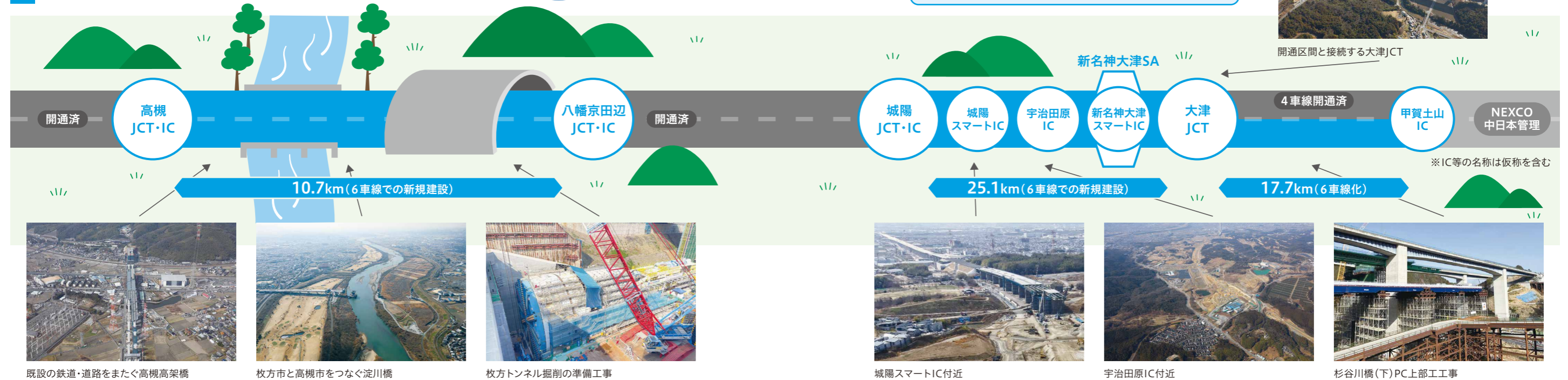
交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能強化や地域活性化などを目的として、高速道路の建設を推進しています。

建設進捗情報



※IC等の名称は仮称を含む

1 新名神高速道路



既設の鉄道・道路をまたぐ高槻高架橋



枚方市と高槻市をつなぐ淀川橋



枚方トンネル掘削の準備工事



城陽スマートIC付近



宇治田原IC付近



杉谷川橋(下)PC上部工事

担当者の声 安全・安心なシールドトンネル掘進に向けて



枚方トンネルは、シールド工法により枚方市街地を通過します。現在は、安全・安心なトンネル掘進に向けて、シールドマシンの組立や掘進に伴い発生する土砂を坑外へ搬出するための設備の設置などを慎重に行っているところです。

当事務所では、「国民に信頼され、地域に必要とされる!!」をスローガンに、地域の皆さまをはじめ、関係機関と緊密な連携を図り、1日も早い開通を目指します。

関西支社 新名神大阪東事務所 枚方東工事区 前畑 和幸

担当者の声 お客さまのご利用を止めることなく6車線化

開通済みの4車線をお客さまにご利用いただきながら新名神高速道路の6車線化工事を実施しています。このため、クレーンによる荷上げ作業に伴う開通済み車線側への落下物や、拡幅作業時の粉塵等の飛散について、最大限の注意を払いながら施工を進める必要があります。また、本工事では現場状況などに応じて新たに採用する施工方法が多いため、日々検討と議論を重ね、安全性と施工性の両立を図りながら工事を進めています。

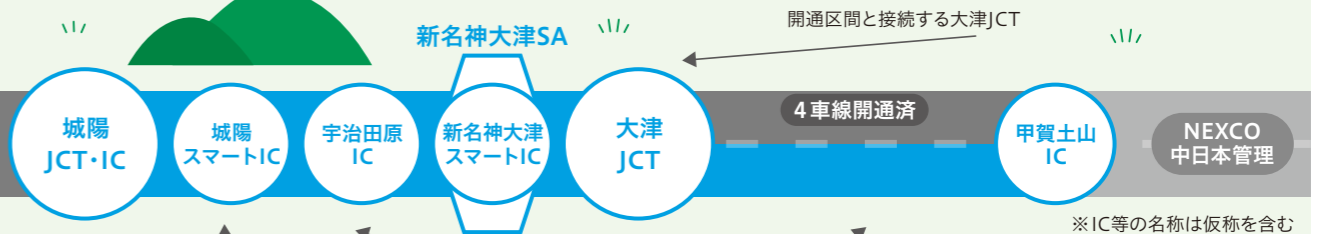
関西支社 新名神大津事務所 甲賀西工事区 見邨 朋哉



- 八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 10.7km (6車線での新規建設)
- 大津JCT～城陽JCT・IC 25.1km (6車線での新規建設)
- 甲賀土山IC～大津JCT 17.7km (6車線化)



開通区間と接続する大津JCT



※IC等の名称は仮称を含む

新名神高速道路特設サイト



2 神戸西バイパス(第二神明道路北線)
永井谷JCT~石ヶ谷JCT 6.9km



平野東高架橋他6橋(下部工)工事

整備効果

1. 交通混雑の緩和による第二神明道路の事故減少
2. 物流ネットワーク拡充による東西方向の物流効率化
3. 第二神明道路の代替路の確保



樋谷西工事

3 大和北道路(京奈和道)

奈良IC~郡山下ツ道JCT、奈良北IC~奈良IC 12.4km



国道24号線交通規制状況

整備効果

1. 交通混雑の緩和・交通円滑化
2. 交通の転換による、国道24号の交通事故減少
3. 移動時間短縮による観光行動の支援
4. 沿線地域の整備による産業の活性化



発志院北第一高架橋他1橋(下部工)工事



大江第一高架橋他4橋(下部工)工事

担当者の声 交通量の多い国道における事業の円滑な推進について

奈良県の主要道路である国道24号沿いで工事を行っています。工事が本格的に動き出し、NEXCOのみならず多くの事業者が限られた夜間の時間帯に複数の箇所を規制して工事を行うため、道路管理者である国土交通省と連携し、円滑に工事を進めるための調整を実施しています。また、広報資料を作成し、関係機関へ説明・周知も行っていきます。国道を利用される方の安全を最優先に引き続き工事を進めていきます。

関西支社 奈良工事事務所 工務課 中西 美友



4 淀川左岸線延伸部

門真JCT~阪神高速接続部 1.1km



門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事

整備効果

1. ネットワークの拡充による大阪都市圏の交通円滑化
2. 並行する都市高速における通行規制時の迂回路確保及び災害時の避難・救護活動を支える広域的な輸送路としての機能確保
3. 物流の効率化による沿線地域への新たな企業進出等、地域経済の活性化

業界全体で「誰もがいきいきと働ける建設業界」を目指す

▶ 女性技術者交流フォーラム

受発注者の若手女性技術者を中心に建設業のあり方を考える「女性技術者交流フォーラム」を、当社と日本建設業連合会で共催しています。女性技術者が当たり前活躍できる職場環境の創出は、男性や他の多様な人々にとっても働きやすい環境につながります。誰もがいきいきと働き続けられる建設業界を実現するため、業界が一体となり、偏見や差別の排除、キャリア形成支援、柔軟な働き方の提供など、職場環境の整備を行っていきます。

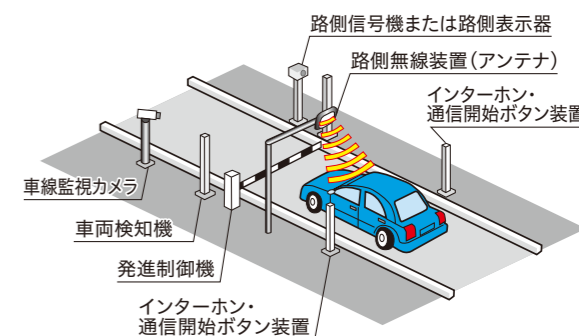


地域へのアクセス向上

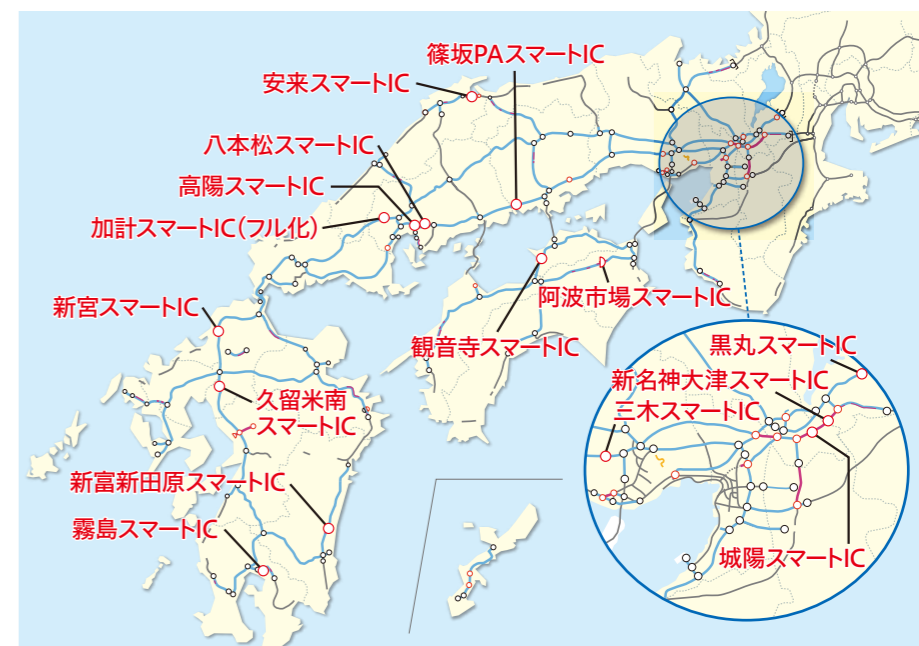
スマートIC



スマートICは、通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。またスマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。



▶ 2026年7月4日 開通予定
高松道 観音寺スマートIC



建設事業中スマートIC 15カ所(名称は仮称を含む)

安全・安心の更なる向上を目指して

4車線化



■ 暫定2車線区間の課題

▶ 速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追い越しができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなります。

→ 時間信頼性確保



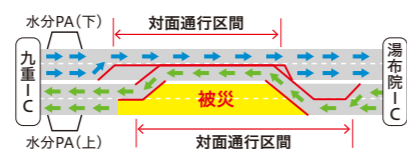
阪和道(印南IC~みなべIC)

▶ 通行止めの発生や長期化

- 事故や積雪等による立ち往生発生時に追い越しができず通行止めとなります。
- 大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- 災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

→ ネットワークの代替性確保

「令和2年7月豪雨」の被災事例

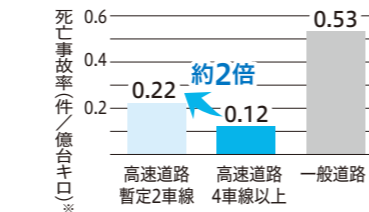


4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能を確保し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。

▶ 正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが4車線区間と比較すると高くなっています。

→ 事故防止



事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.28へ

■ 課題への対応 —4車線化—

暫定2車線区間における課題を踏まえ、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の計画的な4車線化を推進しています。



岡山道(有漢IC~北房JCT)



徳島道(脇町IC~美馬IC)



広島呉道路(坂北IC~呉IC)



2025年度の主な完成箇所

① 松山道(伊予IC~内子五十崎IC)一部 2025年4月19日 4車線化完成



工事前



工事後

② 東九州道(隼人東IC~隼人西IC) 2025年6月15日 4車線化完成



③ 東九州道(宇佐IC~院内IC) 2025年12月12日 4車線化完成



④ 東九州道(宮崎PA~清武IC) 2025年12月20日 4車線化完成



担当者の声 地域社会とのつながり

松山道(伊予IC~内子五十崎IC間6.3km)の4車線化事業では、開通前に地域の皆さまを対象としたウォーキングイベントを開催しました。参加者の声を通じて、高速道路が地域社会において重要な役割を担っていることを改めて感じました。今後も事業のPR・理解促進を図っていきます。



四国支社 愛媛工事事務所 工務課
上里 友空(左) 藤原 銀次(右)

担当者の声 円滑な交通確保に向けた交通運用切替

今回完成した東九州道 宮崎PA~清武ICは宮崎PAのON・OFFランプ部近辺に2車線から4車線へ移行するすり付けを設置する必要があり、4車線化完成前の段階的な交通運用切替が必要となりました。この切替の前処理や切替時の施工計画について受発注者・高速隊で丁寧に検討・調整を行って施工を進めました。

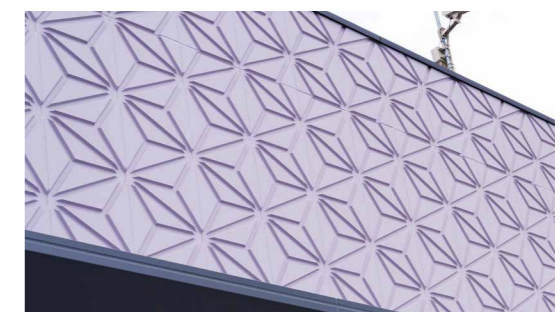
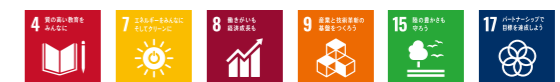


九州支社 宮崎高速道路事務所
宮崎工事区 中村 正文



快適に、豊かに

ひと・モノを快適に運び、
毎日の生活と、社会、地域を豊かに



2025年12月にリニューアルオープンした九州道 広川SA
(上)店舗外観。筑後地方の伝統工芸である「八女手すき和紙」
などをイメージした色合いを表現しています。



いつでも、誰もが使いやすい高速道路へ

ETC・料金



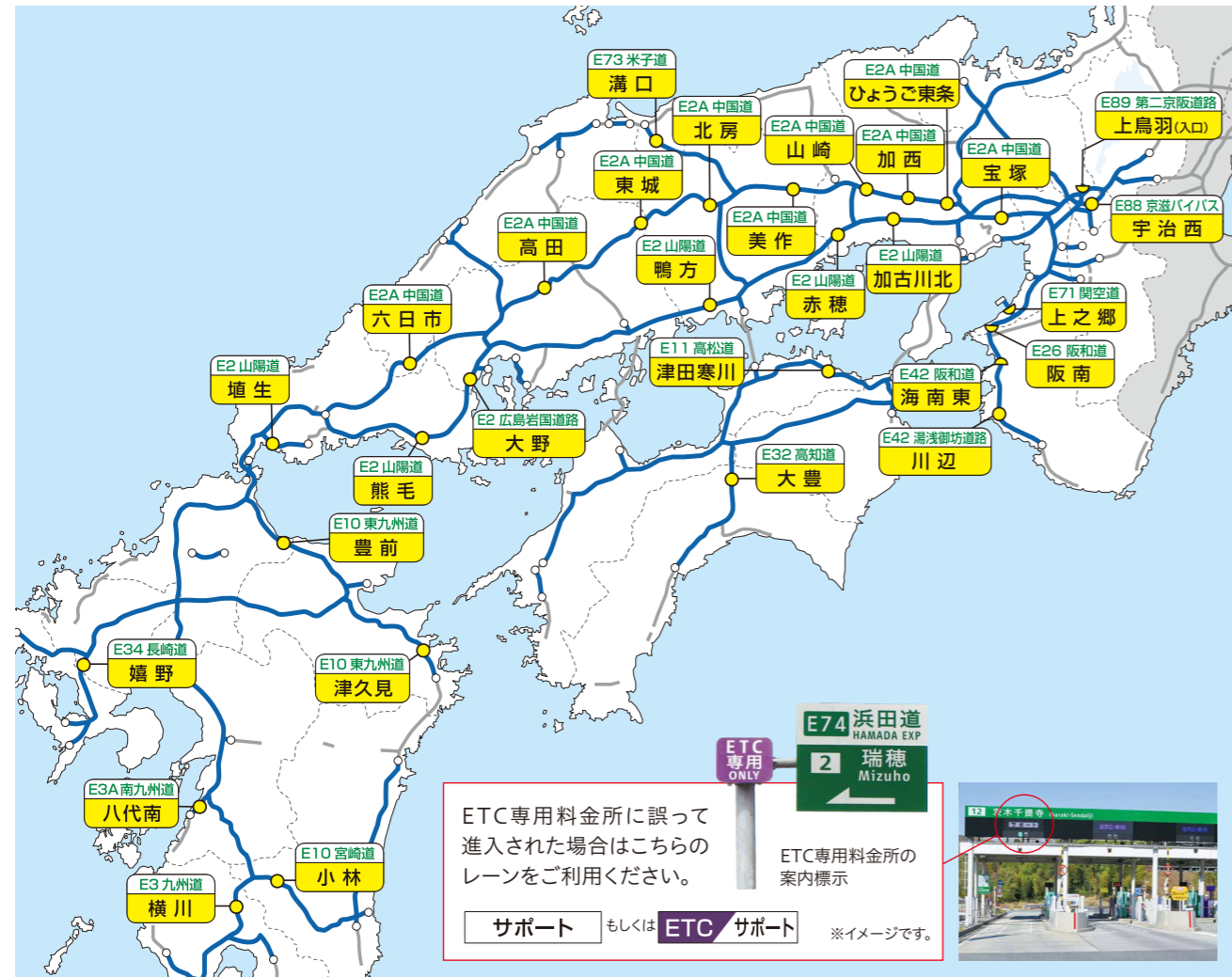
ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化

新しいモビリティ社会に向け、お客さま・社会のニーズに適応した料金収受を目指し、ETC専用化等の取り組みによるキャッシュレス化・タッチレス化を推進します。

ETC専用化等の導入目的

- 空いている時間帯や経路の割引など柔軟な料金設定が容易となり、混雑を緩和してお客さまの生産性向上に寄与
- 料金所係員の人員確保が困難になる中、ETCを活用することにより料金所の機能を維持
- お客さまと料金所係員の接触機会を減らし、感染症リスクを軽減等

▶2026年春から新たに30料金所がETC専用料金所に



全体443料金所のうち、2026年4月末時点では94料金所がETC専用料金所となっております。

ETCの普及促進のための取り組み

●ETC車載器購入助成キャンペーンの実施



●ETCパーソナルカード

クレジットカードをお持ちでない方もデポジット(保証金)を預託いただくことで、ETCカードをご利用いただけます。



深夜割引の見直し

一割引適用待ちの車両滞留の解消やトラック運転者の負担軽減—



料金所前で深夜割引適用待ちをする車両の滞留や運転者等の労働環境悪化などの課題を踏まえ、以下のとおり深夜割引を見直します。変更時期は深夜割引変更特設サイトをご確認ください。

深夜割引変更のポイント

POINT1	POINT2	POINT3
深夜割引の時間帯に 走行した分のみ割引	深夜割引の時間帯が 3時間拡大(22時~翌5時)	後日還元型の 割引制度へ変更

見直し後の深夜割引においては、割引時間帯の走行距離を増大させることを目的とした「速度超過」などの無謀な運転を抑制し、安全・安心に高速道路をご利用いただくために、車種区分等に応じて割引時間帯の走行距離に上限を設定します。

車種区分等	上限距離
軽自動車等/普通車/ 中型車/乗合型自動車	1時間あたり 105km
大型車/特大車(乗合型自動車以外)	1時間あたり 90km

割引適用時間帯における利用時間が4時間を超える場合、休憩時間30分相当の距離を上限距離から減じます。詳細は深夜割引変更特設サイトをご確認ください。

また、割引見直しによる長距離利用の通行料金負担増や新たな交通集中を抑制することを目的に、激変緩和措置を実施します。

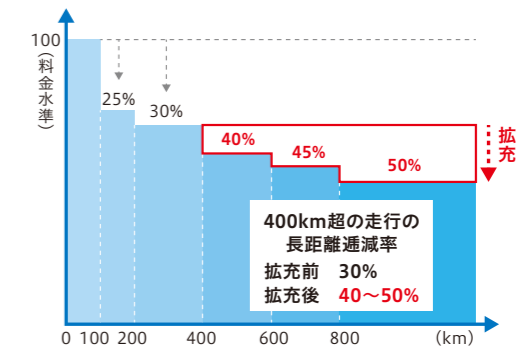
深夜割引見直し後の激変緩和措置

1. 深夜割引適用車両のうち1,000km以上走行した場合、1,000kmを超える部分を割引対象走行分に追加
2. 22時台に高速道路を流出した車両については、22時台に走行した分の還元率を最大20%

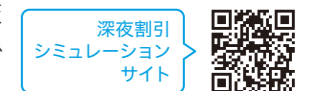
深夜割引の変更による長距離利用の通行料金負担増加を軽減することを目的として、400km超の走行を対象に、長距離通減制を拡充します。

長距離通減制とは

NEXCO3社が管理する高速道路のうち対距離料金を適用する高速自動車国道の利用にあたり、利用距離に応じて通行料金を通減する制度です。(対距離料金を適用しない高速自動車国道、一般有料道路、他の高速道路会社が管理する高速道路は対象外であり、長距離通減の対象距離には含まれません。)



深夜割引変更後の通行料金と、深夜割引時間帯の走行距離等の入力に基づき算出する深夜割引還元額の概算額は、当社ウェブサイト内の「深夜割引変更後の料金シミュレーション」で調べることができます。



ドライブ旅行の促進に向けて —ドライブパスの魅力と利便性の向上—

ETC車限定で対象エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス(周遊パス)」のより一層の利用拡大を図るため、自治体と連携したプランや観光施設等のチケットとのセットプランなど魅力的なプランの拡充に取り組んでいます。



▶実施中のドライブパス (2026年4月時点)

西日本各地(関西・四国・九州)

●2026ツーリングプラン

2026 ツーリングプラン
2026年4月1日(水)
2026年11月30日(月)
事前申込制

中国

- ぶらり中国ドライブパス
- 石見旅ドライブパス
- とっとり満喫ドライブパス
- ぶらり中国 おりづるタワードライブパス

関西

- 関西エリア周遊ドライブパス
- 京都・若狭路・びわ湖ぐるっとドライブパス
- まるごと大丹波ドライブパス
- 関西エリア周遊有馬温泉太閤の湯ドライブパス

九州

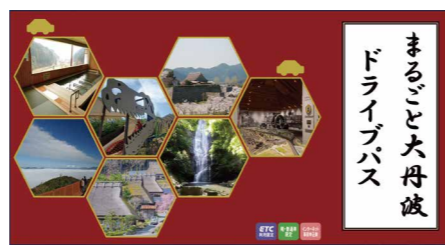
- ぎゅぎゅっと九州まんきつドライブパス
- ぎゅぎゅっと九州マリンワールド海の中道ドライブパス

四国

- 四国周遊ドライブパス
- 四国まるごとドライブパス
- 四国周遊 創造広場アクトランドドライブパス

責任者の声 大丹波の魅力をつなぐドライブパス

2025年4月から、「まるごと大丹波(だいたんば)ドライブパス」を販売しています。「大丹波」とは、旧丹波国に属していた京都府と兵庫県にまたがる7つの市町からなる地域で、歴史・景観・グルメなど多様な観光資源を有する、京阪神圏からの手軽なドライブ旅行に最適な地域です。本ドライブパスは、大丹波エリア内の広域観光を推進する大丹波観光推進委員会の目的と、地域の発展に貢献するNEXCO西日本のグループ理念が合致し実現しました。また、2025年5月から有馬温泉の観光施設と連携したドライブパスも販売しています。旅程の中で日本有数の温泉地で息つける魅力的な企画となっています。今後も、地域や社会からの期待に応え、お客さまに喜ばれるドライブパスの販売に取り組んでまいります。



関西支社 保全サービス事業部 料金課 課長 中川 智之

利便性向上・観光需要平準化に向けた取り組み

▶会員制の導入

申込専用サイト「みち旅」でのドライブパス申し込み時のお客さまの負担を軽減させるため、2025年度より会員制を導入しました。ドライブパスの申し込みに必要な連絡先などの情報を予め会員情報としてご登録いただくことで、申し込み時の都度入力を省略することができます。



▶高速道路周遊パス検索サイト

全国各地でご利用いただける周遊パスを各種条件や対象エリアから検索できるようにし、アクセシビリティの向上を図っています。



▶平日のみの利用で販売価格の15%のポイントを追加付与

休日に集中する観光需要の分散・平準化を図るため、ドライブパスを平日のみの利用期間でお申し込みのうえご利用いただいた場合、販売価格の15%のマイレージポイントを追加付与するキャンペーンを実施しています。

観光スポット×高速道路網 お国じまんデジタルラリー

各県が選ぶ「ごじまん」の観光地やSA・PAに設置したGO!JIMANスタンプを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんデジタルラリー」。高速道路網を活用した地域への誘客促進・観光振興を行っています。



西日本の
お城じまんスポットを
巡るコースが登場!

キャンペーン公式サイト



観光需要平準化や交通分散に向けて

▶休日割引

—交通混雑期等を除いて適用—

観光需要の平準化や繁忙期における交通の分散の観点から、国土交通省との検討を踏まえて、ゴールデンウィーク・お盆・シルバーウィーク・年末年始、3連休には休日割引を適用しないこととしています。引き続き、高速道路の渋滞対策にご理解・ご協力をお願いします。

以下の日程は休日割引が適用されません

- 3連休
- シルバーウィーク
- ゴールデンウィーク
- 年末年始
- お盆

詳しい日付はこちら



「通勤パス」の試行(社会実験)

—多様化する勤務体系への対応と通勤時間帯の混雑解消—

高速道路では、高速道路に並行する一般道における通勤時間帯の混雑解消のため「平日朝夕割引」を実施していますが、多様化する勤務体系への対応や通勤時間帯に混雑している高速道路における交通分散の対応が必要となっています。そのため、2024年4月より、当社管内では香川県・長崎県の一部区間で「通勤パス」の社会実験を実施しています。2026年度は販売価格を見直して継続することとしており、平日朝夕割引の見直しに向けた試行・検証を行ってまいります。

通勤パスとは

事前に車種・区間を指定してお申し込みいただくと、曜日や時間帯にかかわらず、月初から月末までの1ヵ月間、1日3回までの走行に限り、指定区間内の料金を最大50%割引の通行料金でご利用いただける割引です。



すべての皆さまに、快適な休憩施設を

SA・PA



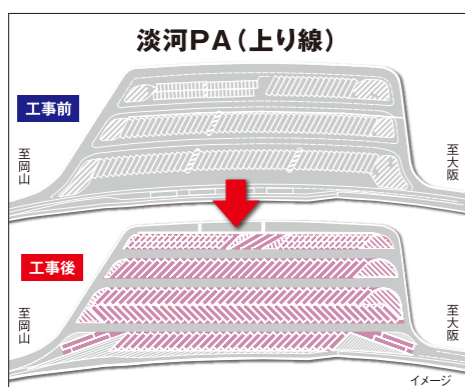
駐車場の混雑対策 — 物流事業者への支援 —

▶ 大型車の駐車マスの拡充

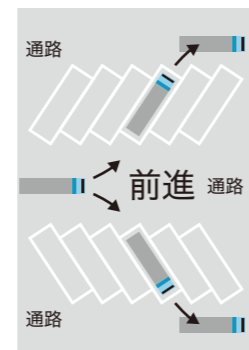
大型車の長時間駐車により、深夜帯を中心に大型車の駐車マスの不足し、混雑が発生していることから、大型車の駐車マスを拡充し、休憩施設の機能向上に取り組んでいます。

山陽道 淡河PA (上) 駐車マスのレイアウト変更

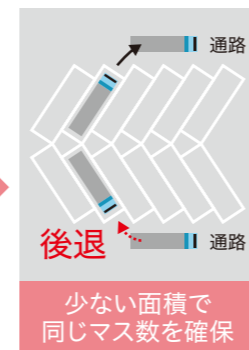
V字駐車マスへの変更により通路1本分を省スペース化などを行い、大型車マス増設のスペースを確保。



単列駐車マス



V字駐車マス



大型車駐車マス拡充実績

- 2025年度 117台
 - 2020年度以降累積 1,200台以上
- ※兼用マス・ダブル連結トラックマスを含む

▶ 深刻なドライバー不足に対応する物流事業者への支援 ダブル連結トラック駐車マスの整備

1台で通常の大トラック2台分の輸送が可能な「ダブル連結トラック」は、2019年8月に運行区間が東北道から九州道まで拡大されて以降、特殊車両通行の許可台数が増加し、物流事業者のニーズ等を踏まえ、通行可能路線が順次拡大しています。当社ではダブル連結トラックの休憩機会確保のため、駐車マスの整備を進めています。



整備箇所の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

25mダブル連結トラックとは

- 通常の大トラック (10tトラック) 約12m
- ダブル連結トラック (1台で2台分の輸送が可能) 最大25m (特殊車両通行許可基準の車両長を緩和)



ダブル連結トラック駐車マス (中国道 七塚原SA (下))

ダブル連結トラック駐車マス整備実績

- 2025年度未累計 73カ所 99台

担当者の声 引き続き駐車場の混雑対策に取り組みます

大型車の駐車マス不足への対策について、2018年度から継続的に取り組んできました。近年、2024年問題に加え、物流ニーズの増加に伴う車両の大型化・多様化が進むなど、SA・PAに求められる機能は大きく変化しています。こうした状況を踏まえ、当社ではトレーラーやダブル連結トラックなど様々な車種に応じた駐車マスの整備も進めています。日本の生活に欠かすことのできない物流を支える企業の一員として、今後も関係機関と連携し、利用しやすい休憩施設を目指していきます。

保全サービス事業本部 保全サービス事業部 交通課 鈴木 裕司



▶ より確実な“休憩”機会を確保する実証実験 大型車の短時間限定駐車マス 西日本管内は26カ所へ拡大

NEXCO東日本、NEXCO中日本と連携して実施している「大型車の短時間限定駐車マス」の実証実験により、短時間 (60分以内) の利用台数の増加、駐車マスの回転率向上などの効果が確認できたため、整備箇所を拡大しています。また、実証実験では、深夜・朝方を中心に60分以上駐車する車両が約30%確認されました。適正な利用を促すため、ポスター・路面表示などお客さまへ周知しています。



整備箇所の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。



黄色の駐車マスの短時間限定駐車マス (九州道 古賀SA (下))



山陽道 三木SA (下)

▶ 新たな駐車形態を試行 出発時間限定 大型車3列駐車マス

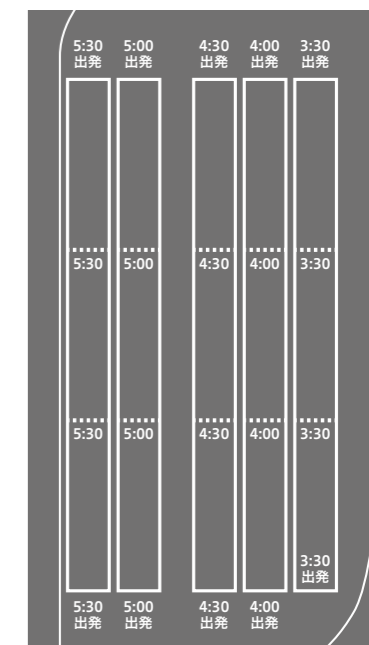
大型車駐車マス拡充の取り組みを進めていますが、休憩施設の敷地は限られており、単純な駐車マスの増設やレイアウト変更には限界があります。そのため、新たな駐車形態として、中国道 鹿野SA (下)において、2024年8月から2025年5月にかけて「出発時間指定 大型車3列駐車マス」を試行しました。試行結果は、山陽道 佐波川SA (下)にて予定している複数縦列式駐車場の整備に役立てていきます。

複数縦列式 (コラム式) 駐車場とは

ドイツのアウトバーンなどにおいて採用実績がある駐車方式。出発時間別に縦列駐車するレーンを設けることで、駐車マスを効率的に配備することを目的とした方式です。休憩施設を出発する時刻毎に縦列駐車させる駐車制御が必要であり、ドイツでは駐車チケットの発券や、駐車マスの頭上に出発時間を表示するなど、ドライバーに駐車方法を伝える制御をとっています。



ドイツ (Jura-West) のコラム式駐車場 (右の写真は、このマスの出発時間を示す表示)



出発指定時間を各マスに標示 (中国道 鹿野SA (下))

SA・PAのリニューアルによる魅力の進化

九州道 広川SA(上) リニューアルオープン

— 筑後の恵みと広川の風情がここに集結! 筑後の魅力がギュッと詰まった新空間に —

2025年12月にリニューアルオープンした広川SA(上)は、外壁デザインに和風模様(和柄)を施すことで慣れ親しみのある、落ち着いたデザインとしています。また、色味は筑後地方の伝統工芸である「八女手すき和紙」などをイメージした淡い紫色を施すことで、地域らしさを演出しています。



新・トイレ棟

新・店舗棟

担当者の声 デザイン刷新と安全に配慮した整備

九州道 広川SA(上)は特殊な敷地形状により、店舗棟やトイレ棟の視認性が良くないエリアでしたが、店舗の外壁デザインへの和風模様(和柄)の採用や、シンボルを加えることで、どこから見てもわかりやすく地域に親しみのあるデザインとしました。また、工事期間中は店舗やトイレを仮設で運用する必要があり、お客さまや従業員の負担を最小限に抑えるため、照明の増設や段差解消、案内表示の工夫を重ね、当社のグループ理念である「安全・安心」を最優先に施工しました。多くの関係者が関わる中で施工ヤード調整や工程管理に苦慮しましたが、受発注者及びテナントと密に連携し、課題を一つずつ解決することで無事オープンを迎えることができました。

九州支社 久留米高速道路事務所 施設第二課 坂口 源太



新・店舗棟のポイント

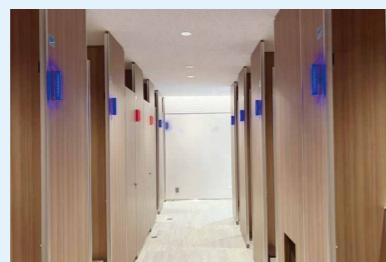
店舗は、フードコートとショッピングコーナーの間に柱がなく、店内を見渡しやすいレイアウトになっています。内装には、筑後地方の伝統工芸品「久留米餅」や「大川組子」などの装飾を施すことで、地域の魅力発信に加え、地域の皆さまから親しみや愛着を感じていただけるデザインとなっています。

ショッピングコーナー

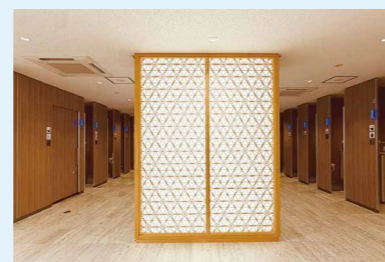
売り場面積は約1.6倍に拡大し、福岡・熊本の人気のお土産や筑後地方の伝統工芸品などを多数取り揃えています。

新・トイレ棟のポイント

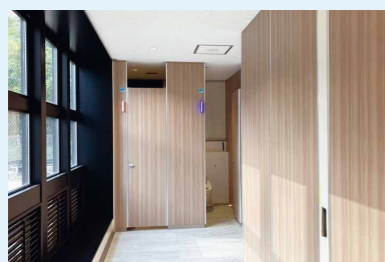
当社では、お客さまに快適で安心してご利用いただけるトイレを目指してリニューアルを進めており、広川SA(上)でもバリアフリー化を行うとともに、自然光を取り込んだ明るいトイレにリニューアルしました。



トイレのブースごとの案内ランプで、空きブースを分かりやすくご案内



和風模様(和柄)を取り入れた内装



自然光を取り込み明るいトイレに



女性トイレへパウダーコーナーを設置



バリアフリートイレの導入

NEXCO西日本は、
お手洗いの **4C + 1E** への
改修を進めています

Clear(明るく)
少ない電力で明るく開放感ある空間

Clean(清潔で)
汚れにくく乾式清掃ができる床材

Comfortable(快適に)
バリアフリー対応・空調設備

Charming(魅力的に)
パウダーコーナーの整備



Ecology(環境負荷の軽減)

LED照明(約50%省エネ)や
節水型便器(約75%節水)の採用



ショッピングコーナー



「久留米餅」と「八女すだれ」



地域の工芸品・名産品を販売



「久留米餅」と「大川組子」

フードコート

座席数は65席から約1.7倍の110席に増やし、より多くのお客さまにご利用いただけるようになりました。地元の名産品を使用したメニューを揃え、フードコート内には地元工芸品の「八女提灯」を装飾しました。



フードコート



「焼きそばの想夫恋」店内

GRAND OPEN

2026年4月には大分県日田市発祥の「焼きそばの想夫恋」を新たに迎え、グランドオープンしました。全国の高速道路では初出店! 更にパワーアップした店舗へと生まれ変わりました。



焼きそば



八女提灯



八女もち豚ステーキ鉄板



筑後ごろし麺

シャワーステーションの充実



シャワーステーション設置箇所

当社では、高速道路をご利用されるお客さまの疲労回復、くつろぎの提供として、13カ所のSA・PAにシャワーステーションを設置しています。

全てのシャワーステーションには、コインシャワーとコインランドリーがあります。長距離運転されるお客さまが、高速道路をご利用いただきながら手軽にリフレッシュできる場所を提供しています。

SA・PAを通じた地域の魅力の発信

▶地域の学校と連携したオリジナル商品・メニューの開発

当社グループでは、地域の学校・企業と連携し、SA・PAで販売する商品・メニューの開発を通じた教育機会の提供を行っています。商品開発により次世代の育成に貢献するとともに、次世代が発掘した“地域の魅力”をSA・PAから発信することを通して、地域の魅力発信拠点としてのSA・PAの成長を目指しています。



九州道 宮原SA(上下線)では、熊本県立南稜高等学校の生徒が考案したコラボメニューを2022年から販売しています。2025年度は、「熊本県の食材・特産品を使用したメニュー」をテーマに全25案の中から書類選考・プレゼンテーション審査会を経て、2品を販売しました。この取り組みは、地産地消の促進や、高校生が“食”を通じて地域を考えるきっかけとなっています。



●川渡り食堂の笑顔輝くトマトチキンカツカレー

熊本県産の「はちべえトマトピューレ」を使用したほのかな酸味を楽しめるカレーです。デコポン風味の爽やかな味わいのゼリーも添えています。

▶「西イチグルメ決定戦」で地域の食材や特色をPR

「西イチグルメ決定戦」は、各SA・PAで地域の食材や特色を活かした「ご当地ならではのメニュー」を開発し、No.1を決める大会です。大会を通して地域の食文化や美味しさを発信することで、地域のPRに寄与します。

第10回を迎えた2025年度は、“新たな「肉」グルメ”をテーマに、当社グループ創立20周年を記念して、「至福の贅沢部門(価格制限なし)」と「究極のお値打ち部門(1,650円以下)」の2部門制で開催しました。

●至福の贅沢部門グランプリ

舞鶴若狭道 西紀SA(下)
奥丹波の華街懐石 里山御膳「花うらら」(1,680円)
里山「丹波」の『奥ゆかしさ』『華やかさ』『麗しさ』を表現した懐石料理。料理全体で里山「丹波」のまちを表現いたしました。

●究極のお値打ち部門グランプリ

名神高速道路 大津SA(下)
滋賀まるごとごちそう御膳(1,580円)
滋賀の大地が育んだ近江牛・げんさん豚・近江鶏を一堂に。滋賀の美味を贅沢に味わう特別なひとときを。



本選大会の様子(2026年2月26日・27日)

TOPICS

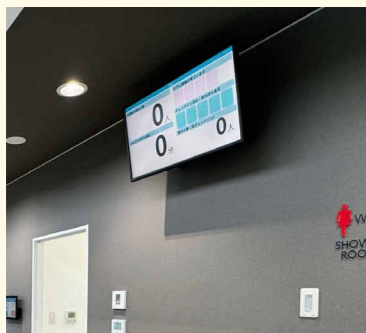
2026年3月、新名神 甲南PA(上下線)にシャワーステーションが新規オープン



甲南PA(上) シャワーステーション



上下線ともに個室のコインシャワーを6室(男性用4室、女性用2室)設置。快適にご利用いただけます。



待ち人数が表示されるモニターを設置。ショッピングなどで待ち時間を有効に使えます。



洗濯機・乾燥機も設置。洗った衣類をすぐに乾かして持ち帰れるのもポイント。旅先でも清潔で快適なスタイルをキープできます。



担当者の声 より快適な休憩へ シャワーステーション新設

お客さまからのご要望が高いシャワーステーションを新名神 甲南PA(上下線)に新設しました。24時間ご利用いただけるコインシャワー・コインランドリーで、休憩が更便利になります。また、シャワーご利用時の鍵の受け渡しが必要なスマートキー予約設備(電子錠)を導入し、満室時は予約で行列を回避できるよう、お客さまがより一層ご利用しやすい施設としました。走行の合間に心身を整えに、ぜひお立ち寄りください。

関西支社 滋賀高速道路事務所 施設第一課 木村 優佑(左)
関西支社 建設事業部 施設建設課 清水 蒼太(右)

スマートフォンとタッチパネルで予約・解錠



担当者の声 西イチグルメ決定戦2025～SA・PA肉万博～

西イチグルメ決定戦は回を重ねるごとに、各店舗さまが開発されるメニューのレベルがどんどん高くなってきており、今回も趣向を凝らしたメニューが多く、非常にレベルの高い大会になったと思います。各テナントさま、関係者の皆さまのご尽力によりお客さまにも好評で、開催期間中(2025年9月～2026年3月)の販売数が23万食となり、多くのお客さまに喜んでいただきました。また今後も西イチグルメ決定戦をはじめ、お客さまにもテナントさまにも喜んでいただけるような販促企画を実施してまいります。

西日本高速道路サービス・ホールディングス(株) 店舗営業部 店舗支援課 森田 祐輔



地域づくりのプラットフォームを目指して

地域共創



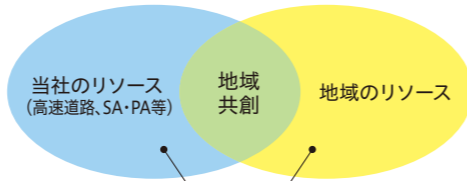
地域と共に、新しい価値を創る

地域共創活動は、地域と当社グループがお互いのリソースを活かし合い、持続可能な地域づくりにチャレンジする取り組みです。

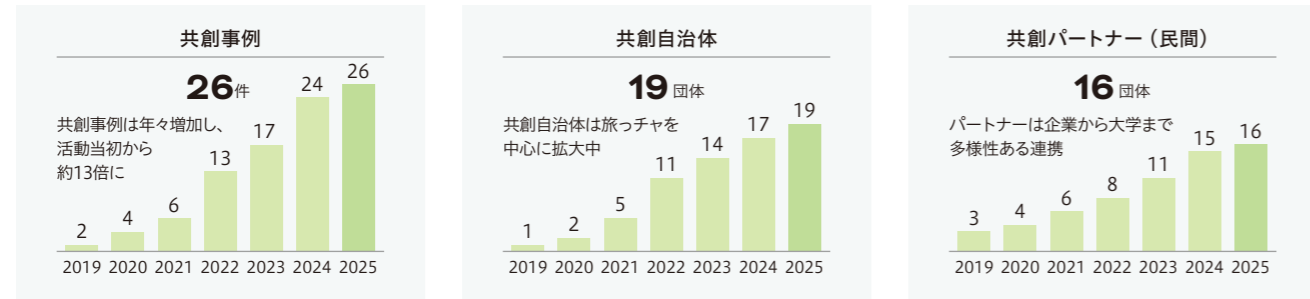
当社グループはこれまで、高速道路等のインフラを活用し、地域の観光産業等の既存市場に対してその効果を発揮してきました。地域課題が多様化する今、既存市場に依存するだけでなく、人と地域をつなぐ力を持つインフラ企業として、地域主体による新たな価値創造を引き出す役割も担う必要があると考えています。

私たちは地域と共に、新しい価値を創る「地域づくりのプラットフォーム」を目指し、挑戦しています。

お互いのノウハウ・リソースを持ち寄り、解決困難な地域課題に取り組むことで、新しい価値を創出



これまでの取り組み(自らのリソースで対応)



移動シーンを3つに分割したプロジェクト

当社グループの地域共創は都市と地域を結び付け、観光・文化・産業などの地域の価値を引き出すことを目的に活動しています。

地域の価値を最大化させるために、移動のシーンを『旅マエ・旅ナカ・旅サキ』に分割して、各シーンに合わせたプロジェクトに取り組んでいます。



九州各地と福岡都市圏を結ぶ架け橋に 旅マエ 産学官共創プロジェクト KSUちはやサービスエリア

九州産業大学、高橋(株)(福岡市東区千早に所在するガーデンズ千早の運営会社)と連携し、高速道路のサービスエリアを模したアンテナショップを学生が主体となって企画運営するプロジェクト『KSUちはやサービスエリア』をプロデュースしています。

2025年度は第2期として取り組みを継続し、学生が実店舗運営という実践的な経験を積み場を産学官共創で実現しています。第2期は、地域共創学部に加えて商学部・芸術学部も参画し、学部横断的プロジェクトへと進化。学生が地域と都市をつなぐ役割を担い、大分県佐伯市に加え、長崎県東彼杵町、熊本県津奈木町、福岡県朝倉市といった九州各地の魅力を福岡都市圏へ発信しています。今後も、地域と都市を結ぶ新たな交流機会の創出を目指します。



TOPICS

情報のサービスエリア第二弾! 町民主体で町のディープな情報を発信する音声メディア「ソノギノオト」



長崎県東彼杵町を運営主体とし、町民をゲストに迎え、地域のディープな魅力を発信する音声メディア「ソノギノオト」を配信しています。本企画は、当社が高速道路ユーザーへの新たな地域情報発信方法として展開している「情報のサービスエリア第一弾」『関門ONAIR』の企画運営を通じて培ってきた知見やノウハウを活かし、番組全体のプロデュースを行っているものです。番組の企画立案から収録、編集、配信を、東彼杵町及び東彼杵町観光協会、東彼杵町でまちづくり分野の実績を持つ日々研究所(株)に所属する東彼杵町在住メンバーが連携して進めています。

こうした取り組みは、単なる音声メディアの配信にとどまらず、制作プロセスにチームで関わることで、自身の考えや想いを的確に伝えるコミュニケーション力の向上につながるのと同時に、実際に町民の声を聞くことで町への愛着や誇りを再認識する機会を創出しています。



地域の声 発信することで気づく、地元の魅力と愛着



参加前はインタビューや音声編集などの経験がなく不安もありましたが、チームで企画会議や収録、編集等の音声メディア制作について議論を重ねる中で、音声だけで想いを伝える難しさや魅力を伝える話し方の重要性を学びました。また、地元で育ちながら知らなかった町の魅力や可能性を知ることができ、地域への愛着や誇りが深まる経験となりました。今後もソノギノオトで得た学びを活かし、地域の魅力発信に貢献していきたいです。

長崎県東彼杵町 産業振興課 中山 楓(ソノギノオト運営メンバー)

TOPICS

高速道路ネットワークと地域をデジタル技術で接続! MetaHighway プロジェクト

高速道路を移動のためのインフラではなく、人・地域・経済をつなぐ共創の基盤として捉え直します。当社の地域共創ノウハウを共創パートナー(MFAS社&KAORU社)の実装構造(デジタル)化支援により、地域の魅力、交流、情報発信、防災、意思決定をつなぐ「情報基盤」(地域ポータル)を構築することで、地域・都市・高速道路を横断する新しい情報流通基盤の創出を目指します。



プロジェクトの第一弾として「高原メタサービスエリア:宮崎県高原町」を始動

高原町は、天孫降臨の地・初代神武天皇ご生誕の地とされ「日本発祥の地」としてPR強化を図っています。当社とも共創活動により関係人口や交流人口の誘客も進めており、2025年8月に総合ポータルサイト「高原メタサービスエリア」を開設しました。これは、地域資源を住民主体で発信できる仕組みを構築することで、地域に存する人や情報、資源等をつなぎ直し、観光・くらし・防災・地域情報をひとつの入口にしたものです。また現在、他の地域においても、人口減少や地域課題に向き合いながら、次世代へ接続可能な町をつなぐための新たな取り組み「AIの町」構想(プロジェクト第二弾)も進めています。





サステナビリティへの基盤

経営環境の変化に応じて
持続的に進化する企業を目指して



価値観やライフステージが多様化する中で、仕事(ワーク)と生活(ライフ)の調和を保ちつつ、ダイバーシティの推進を通じて、それぞれが力を発揮できる仕組みづくりに力を入れています。



社会と社員の信頼に応え、進化し続けるグループへ

人とともに



人権

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を策定し、グループ丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を総括するとともに、次年度の活動計画を策定しています。

人権問題啓発推進の主な取り組み

- ・人権ガイドブックによる啓発
- ・人権週間中のメールマガジンの配信
- ・各種社員研修における講義
- ・グループ会社との連携(出張研修等)
- ・外部講演会等への社員の参加を促進
- ・企業活動における人権状況の点検



新入社員研修における人権の講義



人権問題啓発推進の基本方針

(NEXCO西日本グループ)

- 「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」(世界人権宣言)との認識のもと、私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。
- ・人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
 - ・人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
 - ・人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。

全社員活躍

当社グループの安定的な事業運営と更なる成長に向けて、個へのアプローチの充実、多様性や自律意識向上に取り組んでいます。

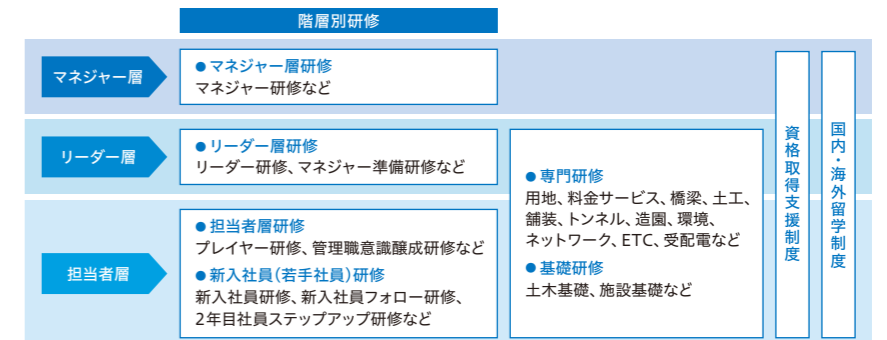
人財育成	キャリア自律支援
<p>自ら行動するプロフェッショナル人財の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自律的な学習や変革につながる学習機会づくり <ul style="list-style-type: none"> ・自己学習ツールの充実、DXツール等の学習環境整備 ● 多様な個の学びや成長が仕事に結びつく循環の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・人財マネジメントの充実、OFF-JTとOJTの連携強化 ● 若手技術者の技術力向上、育成を担う中堅技術者の指導力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・若手技術者、中堅技術者向け研修の更なる充実 ● 専門技術者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・専門技術者会議等による専門知識の習得・技術伝承、学会活動支援 	<p>DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な社員の活躍促進 <ul style="list-style-type: none"> ・女性エンカレッジプログラム推進、キャリアデザイン支援充実 ・女性技術者交流フォーラム ・リスキリング研修の充実 ・意見の多様性を尊重する風土醸成 ● 仕事と家庭の両立支援 <ul style="list-style-type: none"> ・男性育休取得率及び取得日数向上が可能な環境整備 ● 自律的な働き方の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・個々のキャリア意欲の形成支援 ・キャリア自律研修、フォローアップ面談の充実 ● 自律的なキャリア選択を可能とする人事制度の拡充
働きがいのある環境整備	
<p>風通しの良い明るい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社員間コミュニケーション促進 <ul style="list-style-type: none"> ・上司と部下のOne-on-Oneアプローチの充実 ● 働きがいの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークエンゲージメントスコアの導入 	<p>健康経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● からだと心が健康でイキイキと働くことができる会社の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営目標達成に向けた施策の推進 ● 住環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に応じた社宅、住宅支援制度等の拡充 

人財育成

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人財交流も実施しながら、より実践力を備えた人財の育成に努めています。

▶ プロフェッショナル人財の育成

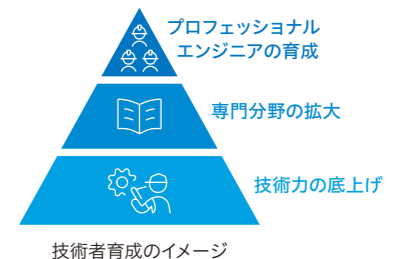
当社では、現場主義に徹して、自ら行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人財の育成のため、キャリアや目的に応じた様々な研修を実施しています。さらに、資格取得支援制度や留学制度、eラーニングの導入など、社員の自律的な成長を積極的に支援しています。



NEXCO西日本の研修体系

▶ 専門技術者の育成

100%の安全・安心の追求や道路資産の永続的な健全性確保を目指し、専門技術力を有する人財を継続的に育成していくための研修施設として、茨木技術研修センター(I-TR:アイトレ)を開設しています。I-TRでは、主として若手技術者・中堅技術者を対象とした基礎研修及び専門研修を行っており、全社的な技術力向上を図るとともに、特定分野に長けた技術者の育成を行っています。また、料金収受スタッフや新入社員研修など、当社グループの様々な研修でI-TRを活用しています。



茨木技術研修センター(I-TR:アイトレ)

劣化損傷した道路構造物や、通信設備・料金機械設備の模擬設備などを設置しており、点検～診断、設備故障や料金収受など、高速道路の総合的な「体験型研修」を実施する研修施設です。



▲ 責任者の声 会社の成長を支えるのは「社員」

当社グループでは、社員一人ひとりの活躍と成長が、グループの持続的な成長を支える基盤であると考えています。高速道路という重要な社会インフラを将来にわたり安定的に支え続けるため、自ら学び、考え、行動できるプロフェッショナル人財の育成に取り組んでいます。また、対話を大切に、風通しが良く、誰もが安心して働きがいを感じられる職場環境を整えることで、社員が力を発揮し成長できる組織づくりを進めています。こうした取り組みを通じて、安全・安心な高速道路サービスの提供と社会からの信頼に応え続けてまいります。

人事部 人事担当課長 山本 武史



働きやすい環境

▶ 明るい職場づくり

当社では、社員が健康でイキイキと働く環境をつくるための取り組みを積極的に行っています。若手社員を対象としたOne-on-Oneアプローチや、誰でもいつでも利用しやすい相談窓口を設け、様々な場面において、社員のコミュニケーション促進を後押ししています。

▶ 職場環境改善の推進

オフィスの生産性や魅力の向上を図るため、ゆとりあるスペースの確保によるコミュニケーションの活発化、業務の効率化等に資する職場環境改善を行っています。



関西支社休憩スペース

キャリア自律支援

▶多様な人材活躍

当社グループでは、「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」をダイバーシティ推進ビジョンに掲げ、社員一人ひとりの違いを尊重し、個人が持つ力を100%発揮できるように、環境を整備しています。多様な視点を取り入れることで、イノベーションを起こすとともに、会社を取り巻く様々な環境変化にしなやかに対応できる組織づくりを進めています。

ダイバーシティ推進ビジョン

違いを尊重し、
個々が活躍し、
進化し続けるチームへ

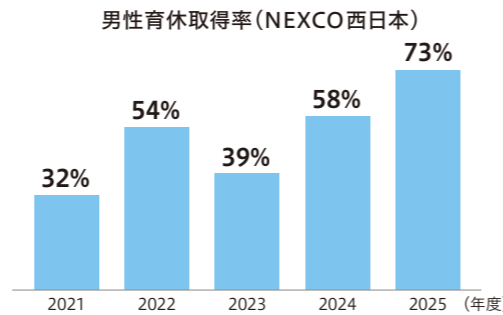
▶自律的な働き方支援

社員一人ひとりが仕事も生活も充実させ、相乗効果でより活躍できるよう、制度の充実や環境づくりに取り組んでいます。

社員の多様な働き方を支援する取り組み

当社では、社員一人ひとりの仕事と生活が充実し、性別、年齢、ライフステージや価値観の違いなどにかかわらず、多様な人材が活躍できるよう、制度づくり・風土づくりを進めています。

- 産休育休前・職場復帰前ガイダンス
- イクボス研修(他企業共催) ・介護セミナー
- キャリア相談窓口
- キャリア自律支援研修 など



制度利用者の声 育休取得が、家族と向き合う大切な時間になりました

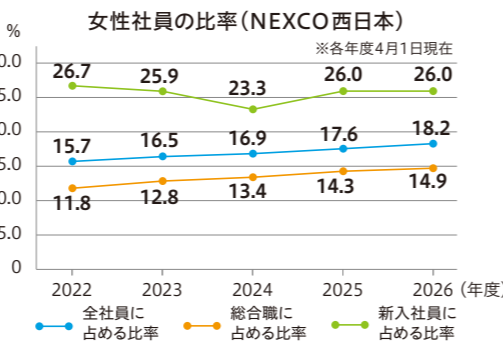
育休休業を1ヵ月取得しました。妻が里帰り出産をしなかったため、産後のサポートや育児の助けになればと思い、取得を決めました。休業中は、娘とのふれあいの時間をしっかり確保できたことに加え、妻の体調面を支えることができ、家族にとって大切な時間となりました。また、勤務地が沖縄のため普段はなかなか帰省できない実家へ戻り、両親に娘を会わせることもでき、非常に有意義な育休休業となりました。取得にあたっては上司や同僚の理解があり、業務を支えてもらえたことに感謝しています。今後は、自身の経験を活かし、同じ立場になる同僚を後押しできればと思っています。

九州支社 沖縄高速道路事務所 施設課 岩本 龍馬

女性活躍促進に関する取り組み

当社では、女性社員が自分らしく働けるように、キャリア形成を支援しています。

- 若手女性キャリアデザインフォーラム(他企業共催)
- 女性リーダーエンカレッジプログラム
- NEXCO 3社女性社員交流フォーラム
- 女性技術者交流フォーラム
- 女性の健康に関するオンライン相談プログラム など



制度利用者の声 同じ立場の仲間との対話が、自信につながっています

今後必要とされる将来のキャリアを考えるきっかけになればと思い、「女性リーダーエンカレッジプログラム※」に参加しました。女性管理職の先輩方の経験談や女性取締役からのメッセージを通じて、今後のキャリアをイメージできるようになりました。また、同じ立場の社員同士のディスカッションを通じて、管理職への不安を共有しつつ、キャリアアップを前向きに捉えられるようになりました。先輩方の「大丈夫。ひとりじゃない。」という言葉に胸に、今後も制度や支援を活用しながら成長していきたいと考えています。

※管理職への不安を和らげ、将来像を描くための支援プログラムのこと

中国支社 広島高速道路事務所 道路管理課 小田 茜

主な仕事と生活の両立支援制度

※制度の利用には要件があります。

- 時差出勤制度
- テレワーク制度
- キャリア相談窓口



制度利用者の声 柔軟な働き方が、毎日の安心につながっています

小学生の子ども2人の習い事の送迎に悩んでいた中、時差出勤とテレワークを組み合わせれば両立できるのではと考え、上司に相談したところ快く受け入れてもらい、毎週金曜日にテレワークを利用しています。通勤時間がなくなり学童のお迎えや送迎に余裕ができたほか、テレワーク中は電話対応や突発的な声掛けが少なく、打合せも入れられない業務を調整できるため、資料作成など集中が必要な業務に取り組みやすい環境となりました。成果の見える化を意識しながら、周囲の理解のもと無理なく働くことができています。

九州支社 建設・改築事業部
建設・改築統括課 木下 友子

制度利用者の声 安心して預けられる環境が、仕事への力になります

子どもの預け先として認可保育施設を希望していましたが、途中入園ということもあり空きがなく、すぐに利用することができませんでした。そこで認可外保育施設の利用でしたが、2024年度から企業主導型保育施設の共同利用契約を会社が締結できるようになったことを知り、早速この制度を利用しました。現在は妻の職場近くの保育施設を利用しており、送迎の負担が最小限に抑えられているうえ、利用料も安くなり、大変助かっています。何より、子どもが楽しく通っていることが、わが家にとって一番の喜びです。

九州支社 宮崎高速道路事務所 改良課 宇都 遼太郎

- 転勤特例制度
出産・育児・介護時に転居を伴う転勤を免除する制度
- 育児時間
- 育児休業
- 部分休業
- 配偶者出産休暇
- 両立支援面談制度
- 子の養育休暇
- 企業主導型保育園 共同利用制度
- 子の看護休暇

ジョブリターン制度

- 介護休業
- 介護休暇
- 介護短時間勤務
- Web介護相談窓口
- 両立支援面談制度
- 転勤特例制度
出産・育児・介護時に転居を伴う転勤を免除する制度

制度利用者の声 キャリアの選択肢が、働く意欲につながっています

昨年58歳で役職定年を迎えるにあたり、単身赴任中であつたこともあり家族と相談し、一時は現役引退も考えましたが、これまで培ってきた経験やスキルを活かしてもう一度挑戦したいとの思いから、幅広い業務に携われる「チーフ」職を選択しました。現在は料金・交通管理業務を中心に、キャンペーンの企画や訓練の実施、若手社員の指導にも携わり、世代を超えた交流の中でやりがいを感じながら仕事に取り組んでいます。

四国支社 徳島高速道路事務所
料金・交通課 エキスパートチーフ 亀井 清輝

- チーフ・スタッフ制度
役職定年～65歳定年までの働き方を自らのキャリア選択等に合わせて自身で選択できる制度

健康経営®

当社では、「からだと心が健康でイキイキと働くことができる会社を実現する」という健康経営の推進方針を定め、社員が将来にわたって働き続けることができる環境づくりに取り組んでいます。



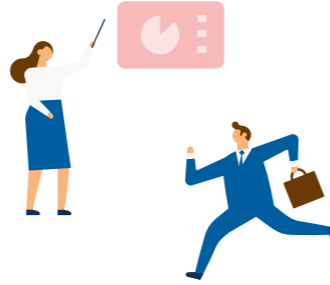
健康経営®への取り組み

健康宣言

西日本高速道路株式会社の最大の資産は、高速道路に関する豊富な知識と経験を持つ社員です。その大切な社員の「からだの健康」・「心の健康」は、社員とその家族の幸福な生活のために、また風通しの良い明るい職場づくりのために重要な課題であると認識しています。からだと心が健康でイキイキと働くことができる会社の実現を社員と一体となって目指します。

推進方針

からだと心が健康でイキイキと働くことができる会社を実現する



目標

推進方針を実現するための目標を設定しています。

プレゼンティーズムの低減

※プレゼンティーズムとは、社員が何らかの体調不良を抱えながらも出勤し、業務を続けている状態

アブセンティーズムの低減

※アブセンティーズムとは、社員が心身の不調を理由に、遅刻、早退、欠勤、休職など、業務を休んでいる状態

目標を達成するための指標 (KGI)・達成目標年度

目標を達成するための指標 (KGI)・達成目標年度を設定しています。

目標を達成するための指標 (KGI)

1. 肥満要改善者の割合を 48%以下にする
2. 高ストレス者の割合を 10%以下にする
3. 適切な睡眠習慣の割合を 75%以上にする

達成目標年度

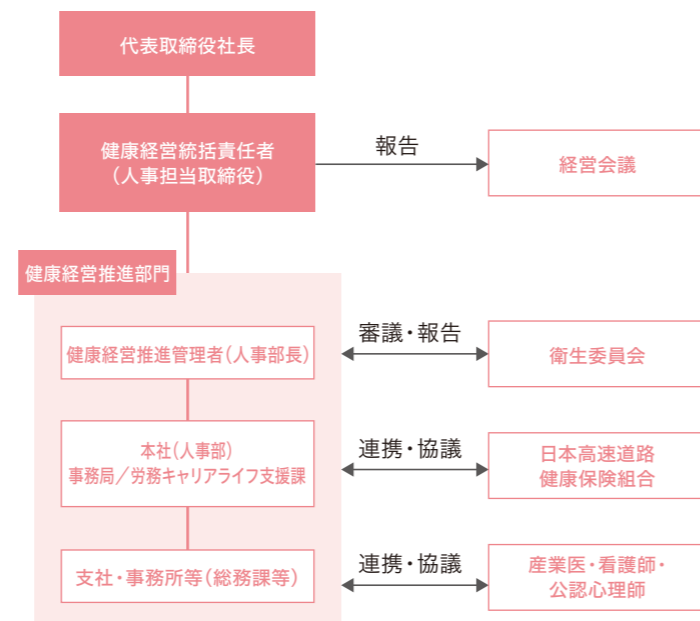
2030年度

当社の健康経営のモチーフは「健康」を花言葉にもつ黄色のマリーゴールド



組織体制

人事担当取締役を健康経営統括責任者として、健康経営を統括しています。各種施策の取り組みは、人事部長を健康経営推進管理者として、健康経営推進部門が中心となり、日本高速道路健康保険組合及び産業保健スタッフ(産業医等)等と連携を図りながら推進しています。



当社の主な取り組み

健康保持増進



歩数管理アプリ

- 定期健康診断・二次検診勧奨の実施 (受診率向上・早期発見)
- 人間ドック受診の補助 (費用の一部を支援)
- 特定保健指導の実施 (生活習慣改善をサポート)
- 禁煙外来受診の補助 (費用の一部を支援)
- 健康相談窓口の設置 (気軽に相談できる体制整備)
- 女性の健康課題に関するオンライン相談窓口の設置 (月経・更年期に対応)
- ウォーキングの推奨 (アプリ等を活用した運動促進)

メンタルヘルスケア



産業医との健康相談

- 心の健康づくり計画の策定 (計画的なメンタルヘルス対策の推進)
- ストレスチェックの実施 (自身のストレス状況の把握)
- メンタルヘルスケア研修の実施 (知識の理解と対応力の向上)
- こころとからだの相談窓口の設置 (専門家への相談体制)
- 健康管理システムの導入 (健診結果等の見える化)



働きやすい職場づくり



職場のソフトバレーボール大会

- カフェテリアプランの導入 (個々のニーズに応じた福利厚生を選択)
- 職場レクリエーションの補助 (コミュニケーションの促進)
- 長時間労働対策の実施 (産業医による健康相談・保健指導)
- 各種休暇制度の整備 (ワークライフバランス)
- 定時退社日の設定 (メリハリのある働き方の推進)



社外からの評価

「健康経営優良法人認定制度」は、特に優良な健康経営を実践している企業を「見える化」した経済産業省が所管する顕彰制度です。当社は、健康に関する各種取り組みが評価され「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました。



「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

担当者の声

健康は、長く活躍し続けるための大切な土台です

当社には様々な施策があり、月経や女性更年期に関するオンライン相談、レクリエーション制度の充実など、社員の健康を支える環境を整えています。困ったときや悩んだときに、産業医や公認心理師に気軽に相談できる体制もありますので、ご自身のタイミングで、ぜひ活用してほしいです。今後も、社内報などでの発信を通じて、一人ひとりが健康を「自分ごと」として意識し、行動につなげられるよう、継続して支援を進めていきます。

人事部 労務キャリアライフ支援課
田中 利加子(左)
田邊 慧里(右)



地球とともに歩む

環境経営の推進



当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5か年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。環境基本計画2030では、環境方針の柱である「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

脱炭素社会の実現に取り組みます

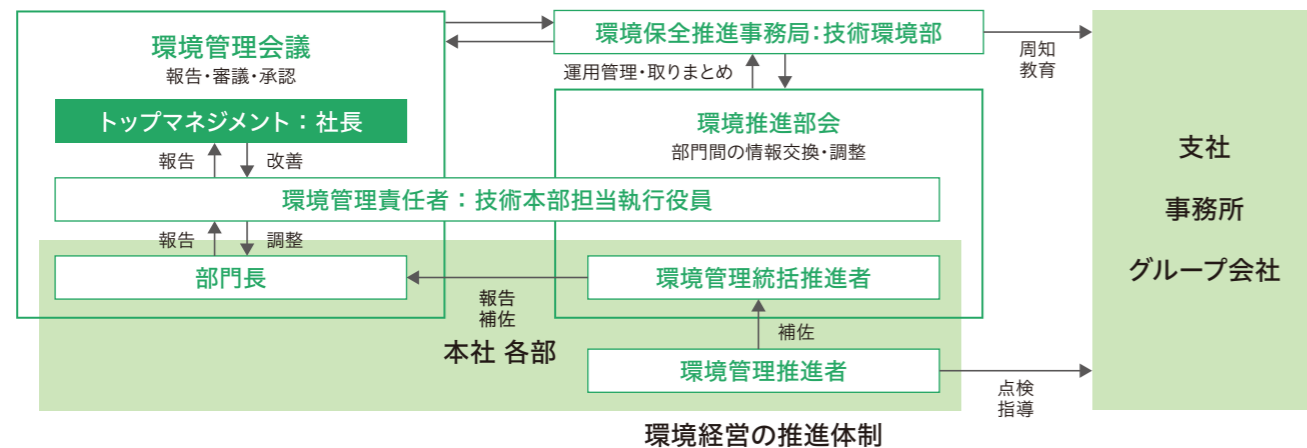
未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。



当社グループの社会貢献活動

当社グループでは、地域社会への貢献の一環として、清掃美化活動に参加しています。また、高速道路会社としてのノウハウを活かすべく、交通安全教室や小学生を招いた現場見学会などを開催し、地域社会との連携に取り組んでいます。



当社グループの環境経営の取り組み

脱炭素社会の実現

高速道路ネットワーク整備 電動車導入

再生アスファルト混合物の検討

省CO₂材料検討

再生可能エネルギーの調達

ZEB[※]化 電気・ガス使用量削減



LED照明導入



太陽光発電



EV急速充電設備整備



建築物木材利用促進

循環型社会の形成

グリーン調達

アスファルト・コンクリート塊等再資源化

建設発生材等再資源化

休憩施設発生ゴミ再資源化



建設発生土再利用

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止対策



のり面樹林化



指標・数値目標を定めた環境アクションプランはウェブサイトにて公開中

※ ZEB: Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物。



地域の自然環境 × 高速道路会社

つなぎの森

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。当社グループの社員が自治体や森林組合の皆さまと下草刈りや植樹を行い、地域との交流やCO₂吸収源確保に貢献するとともに、社員が環境共生の大切さを学ぶ機会となっています。



建設予定地の希少植物の保護

2023年度から、自然環境保全を目的として、関西支社 新名神京都事務所では、武田薬品工業(株) 京都薬用植物園と連携し、希少植物の保護を行っています。毎年、京都市にお住まいの方と、植物園内の「市民の庭」にコムラサキを移植しています。



脱炭素化の着実な推進

当社は、道路法に定められた「道路脱炭素化基本方針」に基づき、道路分野における脱炭素化施策を計画的に推進するため、「道路脱炭素化推進計画」を策定しました。

推進計画では、2040年度までを計画期間とし、道路に関わる取り組みを「**道路管理分野**」「**道路整備分野**」「**道路利用分野**」に区分し、各分野における具体的な施策内容とロードマップを記載しています。



▶ 主な取り組み内容・達成目標

道路管理分野

- トンネル照明及び道路照明のLED化を進めます。

目標 トンネル照明・道路照明のLED化率100%



- 道路関係車両(社用車や道路巡回車等)について、ハイブリッド自動車等への電動車化率を進めます。

目標 道路関係車両更新時電動車化率100%

- 道路や社屋等で使用する電力に環境負荷が少ない再生可能エネルギーを導入します。

目標 2030年度に調達電力の60%、2040年度に調達電力の80%

また、次世代型太陽電池のペロブスカイトを導入し、今後の活用等に向けた検討を行っていきます。



薄くて、軽く、柔軟なため、これまでの技術では設置が難しかった場所にも導入できます

2013年度を基準として、道路管理に伴い排出されるCO₂を2030年度に50%、2040年度に73%削減することを目指します。

道路整備分野

- 製造温度を低減することでCO₂排出量を抑えた「低炭素アスファルト」などの導入に向けた検討を進めます。

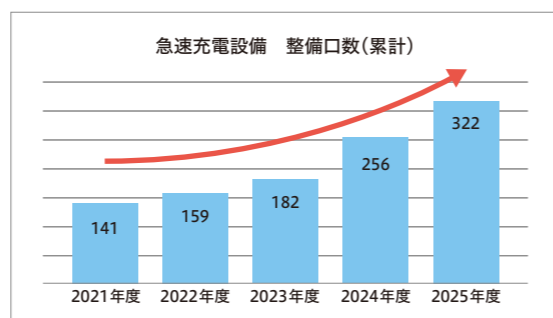


道路利用分野

- 物流効率化のため「ダブル連結トラック駐車マス」を整備します。

目標 2030年度に77施設(累計)[P.45]

- SA・PAにおけるEV充電設備の拡充を推進します。



担当者の声 | カーボンニュートラルに貢献

関西支社管内では現在、44カ所106口のEV急速充電設備を、充電設備事業者と共同で整備しています。2025年度には、山陽道 三木SAなど16カ所で充電器の更新及び増設を実施しました。また、車いすの方でも使いやすく改良するなど、ユニバーサルデザインとバリアフリー化も進めています。



関西支社 建設事業部 施設建設課 久米 龍彌(左)
関西支社 神戸高速道路事務所 施設課 中村 有希(右)



EV急速充電設備(山陽道 三木SA(上))

循環型社会の形成

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、再資源化工場や他の工事現場への持ち込みを進めるなど、最終処分(埋め立て)をできるだけ少なくしています。

今後とも建設副産物の3R(Reduce:削減、Reuse:再利用、Recycle:再資源化)に取り組んでいきます。



建設発生土の受け入れ

自然と共生する社会の推進

▶ エコロードの推進

当社が推進している『エコロード』とは、「自然環境に配慮した道づくり」のことであり、日本道路公団設立当初より、のり面の緑化や既存林の保全など、自然環境の保全に向けた取り組みを行っています。

地域性苗木

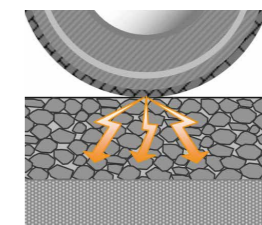
『エコロード』の取り組みの一つとして、自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与しています。



(上)生育中の地域性苗木
(左)開通後13年経過し地域性苗木が樹林化した高速道路ののり面(新名神高速道路 信楽IC付近)
(右)地域性苗木の植栽パック

▶ 高機能舗装や遮音壁による騒音対策

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任の一つと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、高機能舗装の敷設や、遮音壁の増設・かさ上げ等の改良に努めています。今後も、必要に応じて沿道環境の保全に努めていきます。



高機能舗装
(空気が舗装内に逃げることで騒音が生じにくい)

社会インフラを担う企業として、
ステークホルダーの皆さまへの責任を果たすために

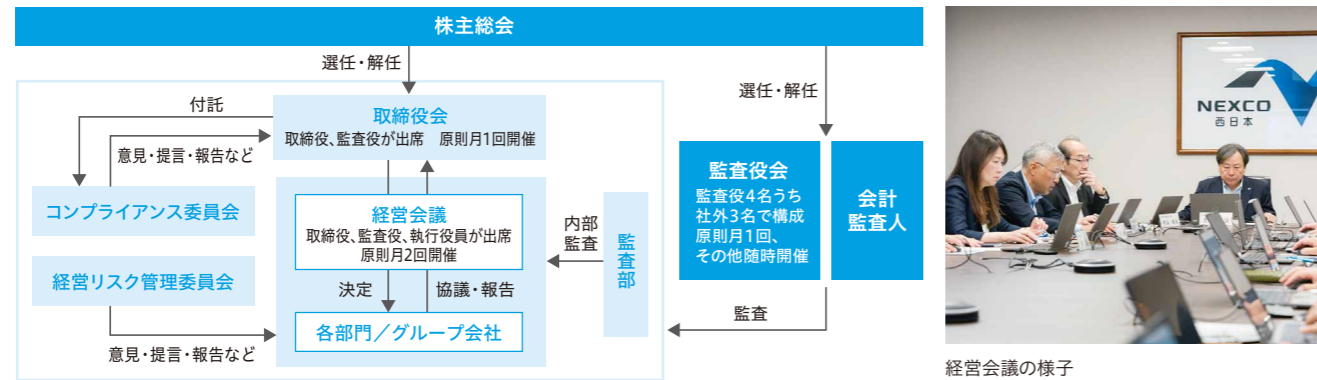


コーポレート・ガバナンス

内部統制

▶ 経営の健全性、透明性の確保

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。また、更なる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

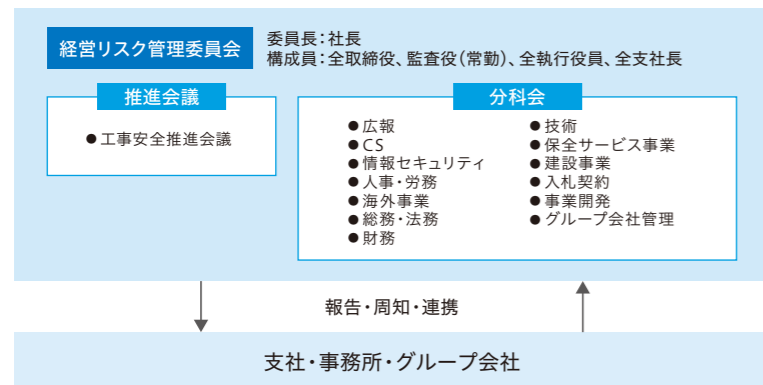


経営会議の様子

リスクマネジメント

▶ 自律的なリスク管理

当社グループの事業活動に伴うリスクについては、現場を担う事務所及び支社において、グループ会社と連携しながらリスクの洗い出しを行う等、自律的に管理していくとともに、当社グループ全体のリスクを統括的に管理する「経営リスク管理委員会」を組織し、リスクの評価・見直しや、予防措置、リスク発現時の対応状況の検証など、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。



工事の安全管理

重大事故リスクアセスメント



受注者が抽出した重大事故リスクについて、受発注者間で確認・協議

安全協議会活動の強化



安全パトロール等で重大事故リスク抽出箇所を重点的に点検

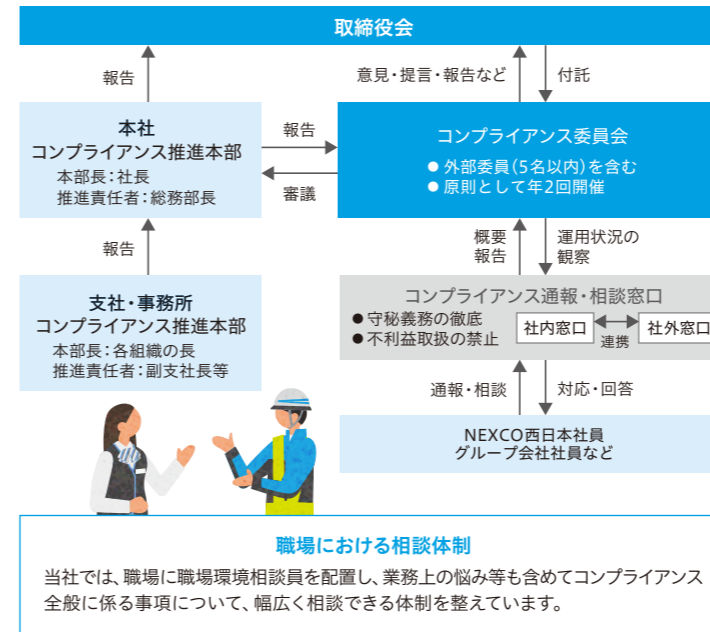
社員教育

研修等を通して、工事中の潜在的な重大事故リスクに関する想像力、予見力を向上

工事の安全管理に関する2025年度の取り組みは、P.16にも掲載しています。

コンプライアンス

当社では、コンプライアンスの徹底と、より高度な倫理観を確立するため、各組織にコンプライアンス推進本部を設置し、コンプライアンス推進計画の作成、実施及び実施状況の検証を行っています。また、自律的な社内秩序の維持、不祥事の抑制・抑止を図るため、コンプライアンス通報・相談窓口を設置し、社員等からのコンプライアンスに関する通報や相談に対応しています。さらに、公正かつ透明性の高い企業活動の実践を図るため、客観性かつ多様な知見を有する外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス向上に向けた意見や提言をいただいています。



職場における相談体制

当社では、職場に職場環境相談員を配置し、業務上の悩み等も含めてコンプライアンス全般に係る事項について、幅広く相談できる体制を整えています。

カスタマーハラスメントに対する基本方針

当社グループでは、社員が、心身ともに健康で安心して働ける職場環境を確保するとともに、社員に対する悪質なクレーム・言動、いわゆるカスタマーハラスメントについて対応するため、カスタマーハラスメントに対する基本方針を策定しています。持続的にお客さまに高品質なサービスを提供できるよう、社員が安心して働き続けられる環境を構築していきます。



詳細はこちら

西日本高速道路ビジネスサポート(株)によるカスタマーハラスメント研修



公正な取引

▶ 基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、公正性・透明性・競争性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。

▶ 契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

契約手続きの透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。また、入札契約手続きの過程及び結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保と更なる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守



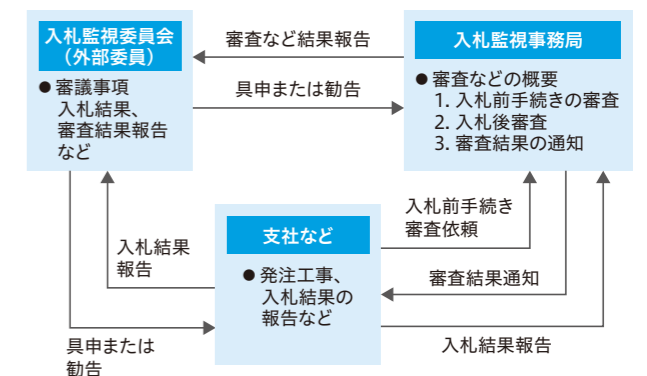
調達・お取引



入札監視委員会の審議概要

▶ 発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。また、この取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。



ステークホルダーとの対話

▶ 社長定例会見

当社グループの営業状況や、多岐にわたる事業への取り組みについて理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、メディアを通じた社会への情報発信に努めています。

▶ 事業評価監視委員会

当社事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。当社的高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。

▶ 投資家説明会

毎年7月に投資家や金融機関の皆さまをはじめとした市場関係者を対象に事業説明会を開催し、当社の事業に対する理解を深めていただくよう努めています。また、質疑応答などを通じて、経営層と直接対話していただく機会とすることで、双方向コミュニケーションの場としても活用いただいています。



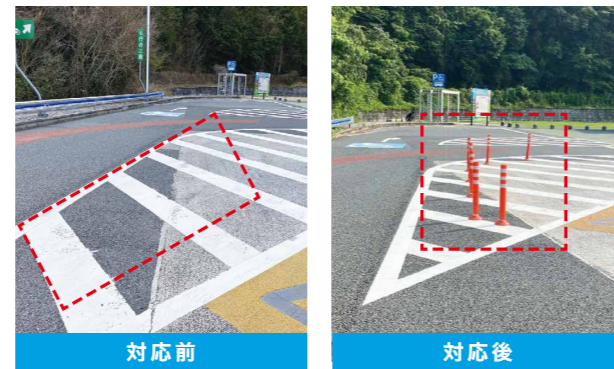
投資家説明会の様子

▶ 記者交流会

報道機関の皆さまと当社グループ経営層の対話の場として、記者交流会を開催しています。毎年1回、関西・中国・四国・九州・東京の各地区にて開催し、いただいたご意見をもとに更なる広報活動の充実に努めています。

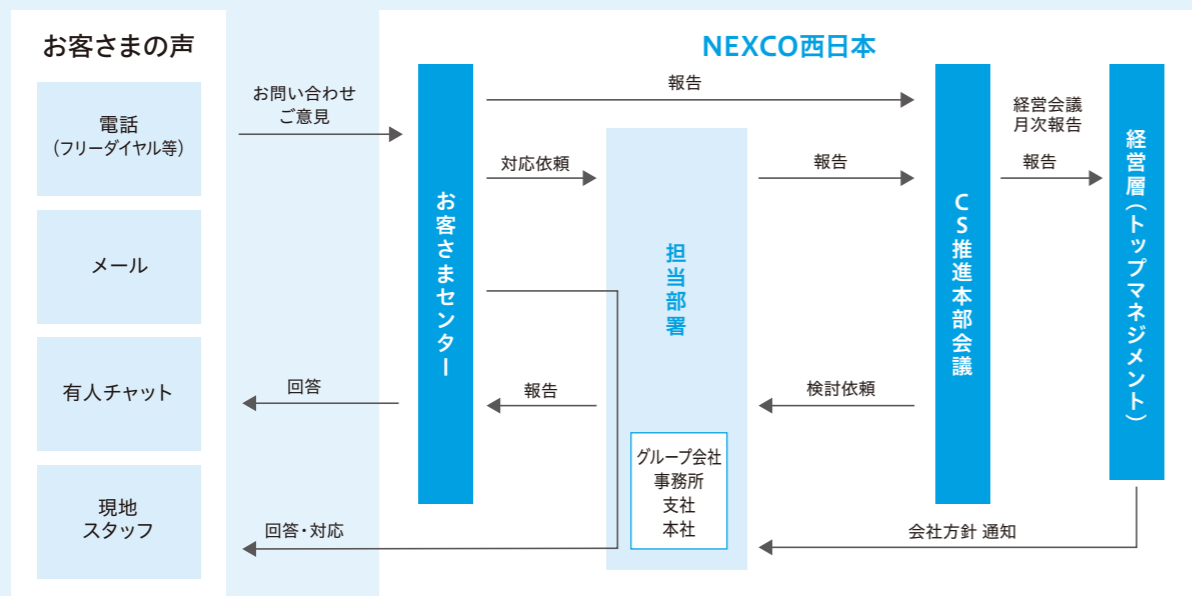
▶ お客さまの声

お客さまから寄せられたご意見・ご要望等は、経営層を含む「CS推進本部会議」にて議論し、経営会議へ報告する等しています。お客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については特に注目して議論するとともに、社内で水平展開すべきものを重点課題として選定し、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。



バス駐車マスの隣のゼブラゾーンを一般車が通過し危険というお客さまの声をを受けて、ラバーボールを設置し安全対策を施しました。(中国道 美東SA(上下線))

お客さまの声 対応フロー



ご意見・ご要望を踏まえた改善事例



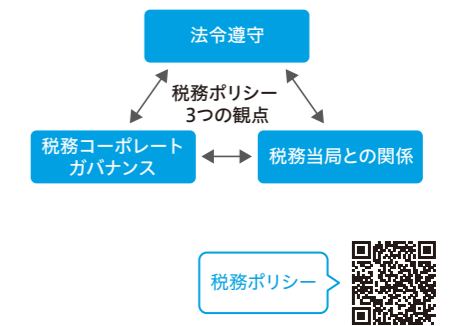
情報セキュリティ

情報漏洩を「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立し、情報セキュリティに対する社員の意識を高めるため、ハード・ソフト面での対策を講じ、不正アクセス対策、ウイルス対策並びにメールの誤送信対策を徹底しています。また、DXの推進にも取り組んでおり、セキュリティ強化と情報連携の円滑化を目的に、グループ全体のIT基盤と運用管理の共通化を進めています。



税務ポリシー

当社グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税を行います。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。私たちは、3つの観点に基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。



日本の技術とノウハウで国際社会に貢献

海外への展開



当社グループは、高速道路の建設・運営管理の経験により培った技術やノウハウを活かして、海外展開を進めています。本社と海外拠点が連携し、点検技術の海外展開や高速道路運営プロジェクト(PPP事業)※、コンサルティング事業等を行っています。これにより、海外の道路の品質と安全性向上に貢献するとともに、その経験を国内の道路事業にフィードバックすることを目指しています。

※PPP(Public Private Partnershipの略):官と民がパートナーを組んで事業を行う官民連携の形態。

▶ 米国における事業展開

2011年、米国での橋梁点検業務参入を目的に、NEXCO-West USA, Inc.を設立しました。赤外線や画像診断技術を用いた構造物点検やコンサルティング事業を進めています。日本で培った道路管理者としての経験を米国道路PPP区間の保全計画立案に活かす「道路保全コンサルティング」業務を新規で受注するなど、米国のインフラメンテナンスに貢献しています。



道路橋床版点検システム

▶ インドネシア高速道路PPP事業へ参入

2011年に開設したインドネシア事務所を足掛かりに、現地企業2社の株式の一部取得し、日本の高速道路会社として初めて、インドネシア道路PPP事業に参入しました。出資先会社が取り組んでいる新規建設事業・供用中道路の維持管理事業について、当社から出向している社員が技術的指導・支援を行っています。その他、2025年度にはインドネシアにおいて赤外線を用いた橋梁点検の実証事業を行いました。今後も現地での事業展開を進めてまいります。



インドネシアでの実証事業の様子

安定した経営基盤で、安全・安心を提供し続ける

財務情報



▶ 連結損益計算書

(単位: 億円)

区分		2025年度	2024年度	増減	
営業収益	高速道路事業	12,309	11,975	333	
	料金収入	8,041	7,801	240	
	道路資産完成高	4,229	4,131	97	
	その他	38	42	▲3	
	関連事業	524	481	42	
SA・PA事業	348	331	16		
	その他の事業	176	150	26	
	計	12,833	12,457	376	
営業費用	高速道路事業	12,359	11,966	392	
	道路資産賃借料	5,740	5,554	185	
	道路資産完成原価	4,229	4,131	97	
	管理費用	2,390	2,280	109	
	関連事業	465	421	43	
	SA・PA事業	299	279	19	
	その他の事業	166	142	23	
	計	12,824	12,388	435	
	営業利益(損失▲)	高速道路事業	▲50	8	▲58
	関連事業	58	59	▲1	
(うちSA・PA事業)	49	52	▲3		
計	8	68	▲60		
経常利益	80	111	▲31		
当期純利益 ^{※1}	66	91	▲24		

※1 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 ※2 億円未満は切り捨てて表示しています。

▶ 主要な経営指標等の推移

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
営業収益 (億円)	13,296	9,770	10,770	12,457	12,833
経常利益 (億円)	79	16	132	111	80
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	66	3	106	91	66
純資産額 (億円)	2,260	2,335	2,499	2,663	2,815
総資産額 (億円)	16,483	20,278	25,323	26,907	27,444
1株当たり純資産額 (円)	2,377.74	2,456.53	2,629.36	2,801.28	2,961.54
1株当たり当期純利益金額 (円)	69.82	4.13	111.70	96.19	70.33
自己資本比率 (%)	13.7	11.5	9.9	9.9	10.3
自己資本利益率 (%)	3.0	0.2	4.4	3.5	2.4

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2021年度の期首から適用しており、2021年度以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標となっています。
 2. 億円未満は切り捨てて表示しています。

▶ 連結決算実績の解説

1. 高速道路事業

管内の高速道路の通行台数は、対前期2.3%増の313万台/日となり、料金収入は、対前期240億円(3.1%)増の8,041億円となりました。

道路資産完成高は、松山道 伊予IC～内子五十崎IC及び東九州道(隼人道路) 隼人東IC～隼人西ICの4車線化事業の完成などがあり、対前期97億円増の4,229億円となりました。

なお、道路建設に要した経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に引き渡すため、道路資産完成高は、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。

高速道路機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、対前期185億円増の5,740億円となりました。

管理費用は、(前年に比べて)労務費や資材価格の上昇及び補修費用の増加などにより、対前期109億円増の2,390億円となりました。

高速道路事業は50億円の営業損失となりました。(前期は8億円の営業利益)

2. 関連事業

SA・PAの飲食物販売上高は、対前期49億円(4.8%)増の1,066億円となり、SA・PA事業の営業収益は、対前期16億円(5.1%)増の348億円となりました。

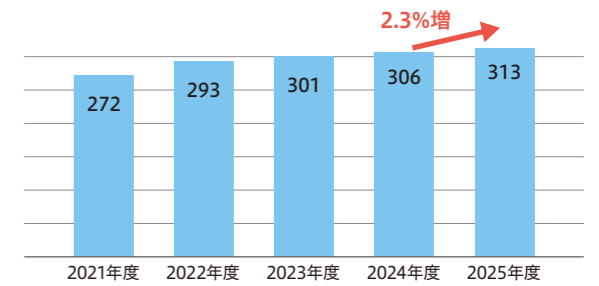
SA・PA事業の営業利益は、収益が増加したものの、売上原価の増加や人件費の上昇に加え、九州道 北熊本SA(2024年度オープン)の店舗改良に係る撤去費用等の一時的な費用の発生が影響し、対前期3億円減の49億円となりました。関連事業全体では対前期と同水準の58億円となりました。

3. 全事業

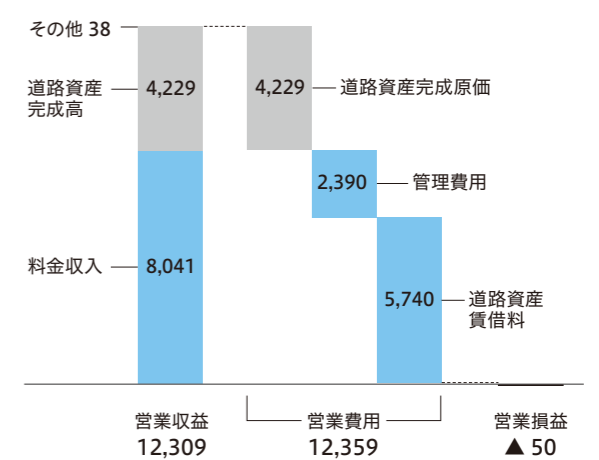
全事業営業利益は、対前期59億円減の8億円となりました。

当期純利益は、対前期24億円減の66億円となりました。

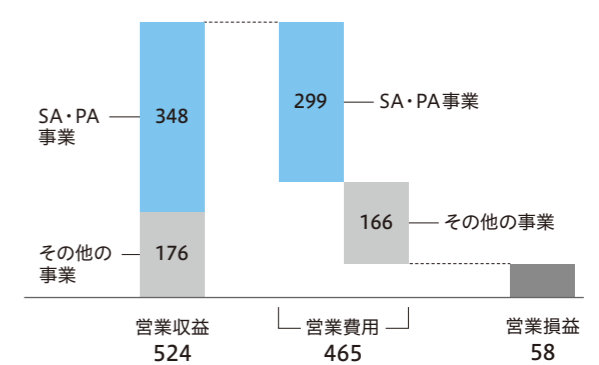
高速道路通行台数の推移 (単位:万台/日)



高速道路事業の損益 (単位:億円)



関連事業の損益 (単位:億円)



※ 億円未満は切り捨てて表示しています。

IR情報



担当者の声 対話を通じて感じる市場動向と今後の取り組み



投資家の皆さまとの対話では、高速道路会社としての事業内容だけでなく、高速道路事業特有の仕組みや会計の特徴について、丁寧かつ厚みのある説明を心がけています。近年は金利の上昇基調が続いていますが、対話を通じて新たに投資を検討される投資家さまのお声も多く、市場の活発さを実感しています。

今後の資金調達においては、金利上昇局面においても低コストで安定的な調達を実現するとともに、西日本エリア内外を問わず幅広い地域の投資家の皆さまとの対話を強化し、投資需要の更なる拡大に努めていきたいと考えています。

財務部 財務課 課長代理 皆本 暖子

会社概要

会社概要

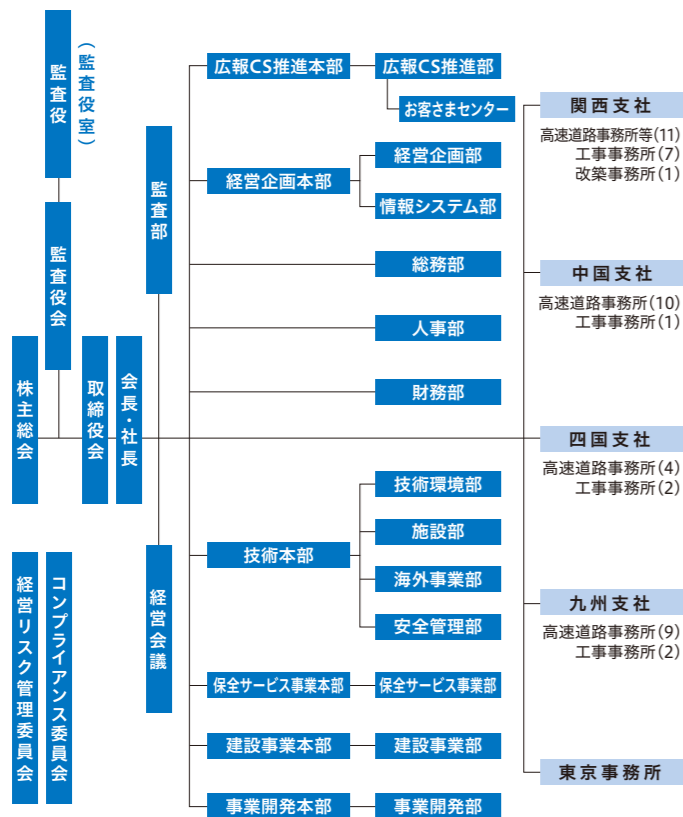


商号 西日本高速道路株式会社
 (West Nippon Expressway Company Limited)
 代表者 代表取締役社長 芝村 善治
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
 資本金 475億円
 設立年月日 2005年10月1日
 従業員数※ (単体)2,712人 (連結)16,174人
 ※ 2026年3月末現在



NEXCO西日本 組織図

組織図



グループ会社

グループ会社



▶ 連結子会社 27社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社
 - (※ 交通管理も実施)
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
 - (※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 - (※ 保全作業も実施)
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
 - (※ 保全作業も実施)
- 保全作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務及び人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 一般自動車事業
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.
- 橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・調査等事業
 - 株式会社富士技建
 - NEXCO西日本コンサルタント株式会社
 - NEXCO西日本インベンス株式会社
- 維持管理システム・ITインフラ等業務
 - NEXCO西日本情報テクノロジー株式会社
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

▶ 持分法適用の子会社 1社

- SA・PAの運営・管理
 - 沖縄道路サービス株式会社

▶ 関連会社 6社

- システムの開発・改良及び運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムソリューションズ
- 研究及び技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械等保守整備業務及び料金収入計数管理業務等
 - 高速道路トルテクノロジー株式会社
- 保険代理業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

事業エリア

事業エリア



高速道路事業

営業中道路 3,625km
 IC数 IC 479カ所 うち、スマートIC 39カ所
 利用台数 313万台/日(2025年度実績)
 料金収入 8,041億円(2025年度実績)
 建設中道路 新設区間72km
 6車線化及び4車線化区間201km

SA・PA事業

サービスエリア 100(94)カ所
 パーキングエリア 213(100)カ所
 売上高 1,849億円(2025年度実績)
 ※ 上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
 ※ ()内は、第三セクターの運営を除いた
 有人の営業施設の数
 ※ 飲食物販、ガソリンスタンドの売上高



高速道路凡例

- 営業中
- 新設・改築事業中*
- NEXCO西日本グループが管理するその他の道路
- 他の道路管理者が管理する道路

※ 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 ※ 一部6車線化及び4車線化事業を含み表示している

標記上の略称
 SA: サービスエリア PA: パーキングエリア
 JCT: ジャンクション S: スマートインターチェンジ



(2026年6月現在)

NEXCO西日本グループのあゆみ

当社は2005年に設立されました。前身の日本道路公団を含めると60年を超える歴史になり、私たちは半世紀以上にわたって、24時間365日、我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラである高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

1956-2004

1956
日本道路公団発足



1963
日本初の高速道路 名神高速道路 (粟東IC～尼崎IC) 開通



1965
名神高速道路 全線開通



1991
ロゴマークの導入



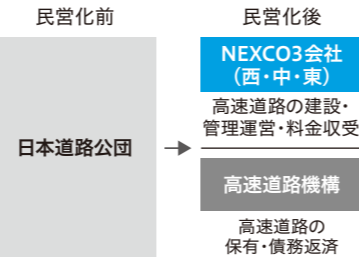
1995
1月
阪神・淡路
大震災



2001
ETCの運用開始

2005-2010

2005
10月
日本道路公団の分割・民営化により西日本高速道路(株)設立



2006
4月
ブランドネーム、ロゴマーク決定



2007
11月
阪和自動車道 全線開通



2008
2月
新名神高速道路 (亀山JCT～草津田上IC) 開通



11月
ハイウェイ交通情報提供『iHighway』サービス開始



2010
3月
第二京阪道路 全線開通



2011-2015

2011
3月
東日本大震災



2012
12月
中央道笹子トンネル 天井板崩落事故発生



2013
4月
京都縦貫自動車道 (沓掛IC～大山崎JCT・IC) 開通

2014
5月
道路整備特別措置法等改正 (高速道路リニューアルプロジェクトのため料金徴収期限を延長)



7月
舞鶴若狭自動車道 全線開通

2015
3月
徳島自動車道 (鳴門JCT～徳島IC) 開通

6月
茨木技術研修センター 「I-TR(アイトレ)」開設

2016-2020

2016
4月
熊本地震



4月
新名神高速道路 有馬川橋 橋桁落下事故発生



4月
東九州自動車道 (椎田南IC～豊前IC) 開通 北九州市から宮崎市が直結



2018
3月
新名神高速道路 (高槻JCT・IC～神戸JCT) が全て開通 宝塚北SAオープン



7月
平成30年7月豪雨 (37道路、2,299kmが通行止め)



9月
台風21号 (関西国際空港 連絡橋タンカー船衝突)



2020
中国自動車道(吹田JCT～神戸JCT)のリニューアル工事を開始



2021-2025

2022
3月
播磨自動車道 (播磨新宮IC～宍粟JCT) 開通



3月
徳島南部自動車道 (徳島JCT～徳島沖洲IC) 開通



2023
5月
道路整備特別措置法等改正 (高速道路の更新・進化のため料金徴収期限を延長)

2020-2023
新型コロナウイルス感染症の蔓延

2025
4-10月
大阪・関西万博開催



CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)

2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成すべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。




















*実績には速報値を含む

重要課題	ステークホルダー参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ
			管理のポイント・指標	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	集計範囲	関連するSDGs	
 お客さま	<ul style="list-style-type: none"> ●お客さまセンター(高速道路利用者) ●SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ●現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率 ^{*1} (自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	3.6件/億台km	3.7件/億台km	後日ウェブサイトに掲載		P.27	
			車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両の取締りにおける措置命令台数)	—	269台	—		NEXCO西日本事業エリアの全国路線網	P.20
			逆走事件数 ^{*1} (交通事故または車両確保に至った逆走事件の件数)	—	97件	—			P.28
人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件数)	700件	976件	—	—					
 お客さま	<ul style="list-style-type: none"> ●現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.7ポイント	3.7ポイント	後日ウェブサイトに掲載		P.67	
			年間利用台数	1,109百万台	1,135百万台	—		P.70,72	
			通行止め時間(営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	78時間	—		P.17-30	
SA・PAのお客さま満足施設への変革		高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められています。	本線渋滞損失時間 ^{*1} (渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	661万台・時	625万台・時	後日ウェブサイトに掲載		P.28	
			路上工事による交通規制時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	—	123時間/km	—		P.17-26,31-38	
			ベビーコーナー設置箇所数	—	1カ所(累計110カ所)	—		—	
 社会	<ul style="list-style-type: none"> ●事業説明会(地域住民) ●設計協議(地域住民) 	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	—	—	—		P.15,31-35	
			6車線化及び4車線化完成路線延長 ※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る	2.8km	2.8km	4.8km		NEXCO西日本事業エリア	P.15,34,37-38
			管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	快速走行路面率(快速に走行できる舗装路面の車線延長)	95%	97%			95%
災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●お客さまセンター(高速道路利用者) 	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	南海トラフ地震等における被害に備えた防災備蓄品の新規備蓄箇所	—	累計248カ所	—		P.25-26	
			地域物産展実施エリア	—	63カ所	—			P.48,50-52
			地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	延べ3,880日	延べ4,156日	延べ4,156日			P.48,50-52
高速道路を通じた地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	3カ所(累計87カ所)	—		—	
			地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	280千件	267千件	—		P.43-44	
			高速道路機構の債務削減	P.7の「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。				(旧道路関係4公団)	
透明性の高い経営と着実な債務の返済	<ul style="list-style-type: none"> ●事業評価監視委員会(財界・学術界の外部有識者) 	国民の財産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	社長定例会見、記者交流会の開催	16回	17回	17回	NEXCO西日本	P.67	
			CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回		NEXCO西日本グループ	P.1
 投資家・国民の皆さま	<ul style="list-style-type: none"> ●事業説明会(機関投資家) ●個別投資家訪問(機関投資家) ●記者会見、記者交流会(マスメディア) ●アンケート調査(NEXCO西日本グループレポート読者) 	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	積極的な情報公開	16回	17回	17回	NEXCO西日本		P.67
			積極的な情報公開	1回	1回	1回		NEXCO西日本グループ	P.1

*1 集計期間:2025年1月1日~12月31日(他は2025年度実績)

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

*実績には速報値を含む

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)			KPI(マネジメントアプローチ)			関連するSDGs	関連ページ
			管理のポイント・指標	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	集計範囲			
 公正な取引関係 SA・PAの テナント会社との 協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 入札監視委員会(外部有識者) ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) 	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回 (各支社2回)	—	NEXCO西日本	 16 平和と公正をすべての人に	P.66	
			お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心に係る講習等	—	年3回	—	飲食物販テナント事業者等	 4 質の高い教育をみんなに	—
 「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を担う人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修(グループ社員) 	安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続けるため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人財育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	延べ1,355回	—	NEXCO西日本グループ	 4 質の高い教育をみんなに  5 ジェンダー平等を実現しよう	P.53-58	
			資格取得支援制度の利用者数	—	360名	—	NEXCO西日本		P.55-56	
			女性管理職者比率	—	3.0%	—	NEXCO西日本		P.53-58	
			男性労働者の育児休業取得率	—	73.9%	—	NEXCO西日本		P.53-58	
			新規採用に占める女性の割合	30.0%	26.0%	30.0%	NEXCO西日本		P.53-58	
 脱炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) 	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● 省エネルギー活動 道路施設の維持管理に要する電気使用量	2020年度実績より5.0%以上削減する	8.2%削減	2025年度実績より1.0%以上削減する	NEXCO西日本事業エリア	 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  12 つくる責任 つかう責任	P.61-63	
			新設料金所等に太陽光発電を設置する	累計30kW	累計20kW	10kW	NEXCO西日本事業エリア		P.61-63	
			エネルギー供給システムに対応した、適切なインフラの整備	電気自動車用急速充電設備を新たに70口増設する	電気自動車用急速充電設備を66口整備完了	電気自動車用急速充電設備を26口更新する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	P.61-64
			事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	NEXCO西日本		P.61-62	
 循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進 	高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	植物系廃棄物(草刈等)の有効活用率	95%以上	99.3%	97%以上	NEXCO西日本事業エリア	 12 つくる責任 つかう責任	P.61-62	
			建設発生土の再利用	80%以上	95.8%	80%以上			P.61-62,64	
			アスファルト・コンクリート塊のリサイクル率	99%以上	100%	99%以上			P.61-62,64	
			コンクリート塊のリサイクル率	99%以上	100%	99%以上			P.61-62,64	
自然と共生する社会の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり 動物侵入防止対策の設置・改良箇所	12km	12km	8km	NEXCO西日本事業エリア	 11 住み続けられるまちづくりを  15 陸の豊かさも守ろう	P.61-62,64	
			遮音壁の設置(設置延長)	2.0km	2.0km	—			P.61-62,64	
 「安全」「環境」「地域貢献」の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全出張講座	—	延べ160回	—	NEXCO西日本グループ	 15 陸の豊かさも守ろう  17 パートナリシップで目標を達成しよう	P.27-28	
			職場周辺や各地域での清掃活動	—	延べ798回 7,972人	—	P.61			
			つなぎの森活動	—	3カ所	—	NEXCO西日本管内		P.62	